

平成25年度

事業報告書(案)および決算報告書(案)

平成25年4月 1日から

平成26年3月31日まで

公益財団法人 日本ソフトテニス連盟



# 【目次】

## ○事業報告

### I. ソフトテニスの普及振興事業

1 ソフトテニス競技規則等の制定事業	1
2 全日本ソフトテニス選手権大会等開催	1
3 地域ソフトテニス大会支援	2
4 加盟団体が行うソフトテニスの競技力向上と普及振興支援	3
5 ソフトテニスの広報活動	3
6 ソフトテニスの表彰・顕彰	4
7 ソフトテニスの技術等級・指導員資格認定に関する事業	17
8 ソフトテニスの審判員資格認定に関する事業	17
9 ソフトテニス用具・用品、施設の公認	18

### II. ソフトテニスの競技力向上事業

1 ソフトテニスの競技力向上、医科学研究調査	19
2 ソフトテニスの指導者育成	24

### III. ソフトテニスの国際振興事業

1 ソフトテニスの国際振興	26
---------------	----

### [各事業を推進するための組織と財政の強化]

1. 組織と財政の強化	28
1 組織と財政の強化の推進	28
2 環境と教育への取組み	28
3 会員登録制度の推進	28
4 暴力行為の根絶	29
5 ソフトテニス創始 130 周年(日本連盟創立 90 周年)記念事業実施準備	29
6 長期基本計画 2012 の推進	29

### (庶務事項)

1 評議員会に関する事項	30
2 理事会に関する事項	30
3 専門委員会等に関する事項	32
4 役員・事務局職員に関する事項	35
5 会員登録に関する事項	40
6 分担金に関する事項	40
7 補助金・助成金等に関する事項	42
8 寄付金・協賛金に関する事項	43
9 傷害補償制度の給付金に関する事項	43

別表 1～4 (大会一覧表・技術等級認定実績・公認審判員認定実績・会員登録実績)	44
--	----

## ○決算報告書

### 財務諸表等

(1) 貸借対照表	52
(2) 正味財産増減計算書	53
(3) 正味財産増減計算書内訳表	54
(4) 財務諸表の注記	56
(5) 附属明細書	58
(6) 財産目録	59
・ 収支計算書総括表	60
独立監査人の監査報告書	63
監査報告書	65

# 事業報告

本連盟は、昭和 58 年（1983 年度）以来、ソフトテニスの抱える現状や課題に対応すると共に、ソフトテニスの一層の普及振興を図るため、将来像の基本となる方向性を示す長期基本計画を策定し、その方針に沿って総合的かつ計画的に取り組んできた。

前長期基本計画は、平成 23 年度（2011 年度）をもってその計画期間が終了したため、計画の達成状況や課題を踏まえて、平成 24 年度（2012 年度）から平成 28 年度（2016 年度）を計画期間とする「ソフトテニス長期基本計画 2012」を策定し、新たにスタートした。

平成 25 年度の事業遂行にあたっては、ソフトテニスの普及振興を図り、国民の心身の健全な発達に寄与することを目的として、公益財団法人として、高い社会的信用を維持し、次の諸事業を積極的かつ効果的に実施した。

## I. ソフトテニスの普及振興事業

### 1. ソフトテニス競技規則等の制定事業

- (1) ソフトテニス競技（ダブルス・シングルス）を実施するために必要な競技規則を定めることを目的として、ソフトテニスの振興と競技性の向上等、より安全に楽しく競技できるよう必要に応じて検討を行い、ソフトテニスハンドブック（競技規則・審判規則・大会運営規則）やジュニア審判マニュアルに反映することとしている。

①ジュニア低学年用の審判マニュアルを検討し原案を作成した。

②競技規則の改訂の検討を進めた。

公共施設を活用するにあたり、ソフトテニスとテニス異なる施設基準となっているため、様々な場面で不都合が生じているので、安全性を考慮しつつ施設基準（アウトコート）を共通化するための検討を進めている。

- (2) 日本で発祥した競技であることから、国際ソフトテニス連盟（以下 ISTF）やアジアソフトテニス連盟（以下 ASTF）における中心的なリーダー国として国際競技規則との整合性を図ると共に、英語版審判技術マニュアル(DVD)等を活用して国際普及を図った。

①国際競技規則の改訂の検討を進めた。

世界各国に設置されているテニスコートに合わせた施設基準（アウトコート）に改訂し、国際大会の実施に支障が無いようにすることを ISTF に提言すべく検討を進めた。

### 2. 全日本ソフトテニス選手権大会等開催

- (1) 国内競技会を大会実施要項に基づき実施した。

①別表 1（P44～47）のと通りの大会日程および会場で実施した。

②大会要項の改訂を実施した。

ア. ハイスクールジャパンカップ

・ダブルスに加え、各都道府県より男女 1 名の参加数による、シングルの種別を新設した。

イ. 全日本シニア選手権大会

・男女 80 歳以上の種別を新設した。

ウ. 国民体育大会へのシングルの導入

・平成 27 年度の和歌山国体からのシングルの導入が決定した。

③日本スポーツ振興センターの助成事業として以下の大会を実施した。

- ア. JOC ジュニアオリンピックカップ大会/全日本ジュニア選手権 助成金 1,005,000 円
- イ. 天皇賜杯皇后賜杯全日本選手権大会 助成金 1,959,000 円

(2) 大会の検討と大会運営の改善

①全日本選手権大会の検討

- ・NHK 放送を考慮した会場の基準や進行等を工夫して「するスポーツ」と「見るスポーツ」双方を向上させるための検討を継続して行った。

②全日本団体選手権大会の検討

- ・団体総合選手権大会の創設や実業団、クラブの団体対抗大会のあり方について検討した。

③国民体育大会の出場枠の検討

- ・国民体育大会の参加チーム数の増加についてシングルス導入を含めて検討を行い、(公財)日本体育協会との調整を図り、平成 27 年度の和歌山国体からの導入が決定した。

④日本スポーツマスターズの充実

- ・日本スポーツマスターズ参加者の負担軽減等を行い、全都道府県の参加を目指して大会の充実を図った。
- ・33 支部×@100,000 円の助成を行った。

⑤大会参加申込のシステム化

- ・平成 24 年度からの主催大会の参加申込システム活用により、参加資格のチェック等による事務負担の軽減と参加申込の効率化を図った。併せて支部大会申込のシステム活用について検討を行い、平成 26 年度からの実施に向けて開発を行った。

⑥主催大会開催地への支援

- ・主催大会を主管し、実質的に運営している開催地の運営状況等を的確に把握し、主要事業である大会が円滑に運営されるように支援した。

⑦主催大会における大会運営マニュアルの活用と役割分担の明確化

- ・円滑な大会運営を行うため日本連盟と主管支部の大会開催にあたっての役割分担の明確化を図るため、競技、審判、広報等大会運営マニュアルの作成を進めた。

⑧ゼッケンの統一化

- ・ゼッケンの表示方法をより明確にし、(公財)日本ソフトテニス連盟主催大会での統一化を図った。
- ・中学生については、平成 26 年度より順次統一ゼッケンに移行し、平成 28 年度に統一を完了することになっているため、平成 25 年度は周知期間として徹底を図った。

3. 地域ソフトテニス大会支援

(1) 地域等における競技会開催に、次のとおり補助を行った。

①9 地区選手権大会

- ・9 地区×200,000 円を助成した。

②地区高校選抜大会

- ・9 地区×100,000 円を助成した。

③10 地区中学選手権大会

- ・10 地区×100,000 円を助成した。

④壮年東西対抗大会

- ・ 200,000 円を助成した。
- ⑤超壮年東西対抗大会
  - ・ 200,000 円を助成した。
- ⑥全日本学生同好会大会
  - ・ 200,000 円を助成した。

#### 4. 加盟団体が行うソフトテニスの競技力向上と普及振興支援

##### (1) 地域グループ育成のため、次の事業を実施した。

###### ①地域クラブ・ジュニアクラブ等の育成

- ・ 地域クラブ、ジュニアクラブ等の育成の充実を図ることを目的として、各支部に対し会員登録料から下記の率により助成した。

(一般 20%、高校生 10%、高専 10%、中学生 20%、小学生 50%)

###### ②支部中学校大会への補助

- ・ 47 支部×@30,000 円を助成した。

###### ③支部レディース大会への補助

- ・ 47 支部×@50,000 円を助成した。

###### ④ソフトテニス週間の実施

- ・ 10 月の体育の日（月）を中心とした週(金曜日から木曜日) をソフトテニス週間として定め、全国で一斉にソフトテニスを楽しみアピールした。

44 支部×@100,000 円を助成した。

###### ⑤ソフトテニス愛好者増加対策

- ・ 中学校部活動引退後の練習場所を確保し、引退後もプレーできる環境を提供する等の支部が実施する愛好者増加対策事業を支援した。

32 支部×@100,000 円を助成した。

- ・ 中学校に対して、愛好者の増加を目的に機関誌を配布（年 2 回）してソフトテニスの情報を積極的に発信した。

- ・ 一般・社会人の大会参加増加等の愛好者増加対策を検討した。

###### ⑥指導者バンク（地域）の活用促進

- ・ 積極的に指導者バンク（地域）を活用し、競技者育成プログラム（Step-1,2）の推進および、中学校・高校の指導者不足を解消する等、普及を担う指導者を確保・活用した。

###### ⑦傷害補償制度の徹底

- ・ 制度の目的、趣旨を会員報・ホームページ等を利用して分かり易く伝え制度活用の推進を図った。

#### 5. ソフトテニスの広報活動

##### (1) メディア対策

###### ①新聞報道の充実

- ・ 報道機関に対し、話題性のある広報を積極的に行った。
- ・ 新聞報道対応マニュアルを活用した。

###### ②テレビ放映の充実

- ・ 平成 13 年から継続している全日本選手権大会の NHK テレビ放送を 13 回連続実現した。

- ・NHK,民放への積極的課題提供を行った。

(2) ホームページの運営

①ホームページ等の充実

- ・日本連盟ホームページの充実と積極的活用を行った。ケータイホームページについては、スマートフォン等の拡大に伴い活用範囲が狭まったことにより、平成26年1月31日をもって閉鎖した。
- ・日本連盟テレビ局及び各支部テレビ局の映像を通して、積極的な動画配信の広報活動を展開した。
- ・Ustream を活用しライブ中継を実施した。  
〔日本リーグ（広島市）、都道府県対抗全国中学生大会（伊勢市）〕
- ・過去の日本連盟主催大会の映像が、いつでも見れるように動画ライブラリーを推進し効果的広報を展開した。
- ・日本連盟ホームページ(英語版)とアジア連盟ホームページから国際情報を積極的に発信した。

(3) 広報誌発行

①機関誌「ソフトテニス」の毎月発行

- ・内容の充実と購読者募集を行った。

購読者数	支部購読	1,352名	個人購読	348名
(平成24年度)	支部購読	1,383名	個人購読	327名

②会員報を年2回発行した。

③平成25年大会記録集を作成し、支部・報道機関等へ配布した。

(4) 「ソフトテニスの歌」の活用

- ・日本連盟主催事業での活用と、全国各地域での普及を図った。

(5) ソフトテニスのアピールと周知

2020年の東京オリンピックを見据え、ソフトテニスの映画と漫画を制作し、指導教本（DVD BOOK）との3点セットでソフトテニスを広くアピール・周知していくための準備を行った。

6. ソフトテニスの表彰・顕彰

平成25年12月1日の評議員会に先立ち、平成25年度の表彰式を執り行い576名の個人及び41団体の受賞に対して、本部功労者を代表して吉田博紀氏（熊本県）が表彰盾を、支部功労者を代表して新保俊彦氏（青森県）、優良団体を代表して川畑城氏（鹿児島県）、優秀監督および最優秀選手を代表して大島史子氏（神奈川県）、ランキング選手を代表して篠邊保氏（愛知県）に表孟宏会長から賞状等を授与した。

表彰の内訳は、次のとおりである。

1	本部功労賞	3名
2	支部功労賞	89名
3	優良団体	40団体
4	優秀監督	18名
5	優秀選手	12名
6	ランキング	452名
7	読売スポーツ賞	1チーム（17名）
8	JOC ジュニア・オリンピックカップ最優秀選手	2名



[表彰者名簿]

1. 本部功労者
  - 吉田 博紀 (日本連盟理事、熊本県連盟理事長)
  - 川島 登 (日本連盟理事、福島県連盟理事長)
  - 柳下 秋久 (日本連盟理事)
2. 支部功労者 別紙参照
3. 優秀監督および優秀選手
  - 最優秀監督 実業団 男子 藤川幸徳 (N T T西日本広島)
  - 女子 金治義昭 (東芝姫路)
  - 大 学 男子 小野寺 剛 (早稲田大学)
  - 女子 小野寺 剛 (早稲田大学)
  - 高 校 男子 紙森隆弘 (大和高田市立高田商業高等学校)
  - 女子 外 藪 茂 (中村学園女子高等学校)
  - 中 学 男子 大島史子 (横浜市立領家中学校)
  - 女子 須藤泰司 (見附市立西中学校)
  - 小学生 男子 木上 剛 (和歌山県)
  - 女子 川並久美子 (和歌山県)
  - 優秀監督 実業団 男子 中村 謙 (ヨネックス)
  - 女子 平田清乃 (ナガセケンコー)
  - 大 学 男子 西田豊明 (日本体育大学)
  - 女子 西田豊明 (日本体育大学)
  - 高 校 男子 堀 祐輔 (中京高等学校)
  - 女子 野口英一 (文化学園大学杉並高等学校)
  - 中 学 男子 小栗友貴 (多治見市立多治見中学校)
  - 女子 中村正直 (淀之水学院昇陽中学校)
  - 小学生 男子 石田隆秀 (兵庫県)
  - 女子 馬島靖明 (兵庫県)
  - 最優秀選手 男 子 桂 拓也・高月拓磨 (早稲田大学)
  - 女 子 上原絵里・阿部悠梨 (ナガセケンコー)
  - 優秀選手 男 子 篠原秀典・小林幸司 (日体桜友会・ミズノ)
  - 女 子 森田奈緒・山下ひかる (ヨネックス)
  - 敢闘選手 男 子 村上雄人・中本圭哉 (N T T西日本広島)
  - 女 子 小林奈央・石井友梨 (早稲田大学)
4. 優良団体 別紙参照
5. ランキング選手 別紙参照
6. 読売スポーツ賞 第6回東アジア競技大会ソフトテニス競技男女日本代表チーム
7. JOC ジュニアオリンピックカップ
  - 最優秀選手 男 子 船水雄太 (早稲田大学)
  - 女 子 若田実友子 (中村学園女子高等学校)
8. 国際大会入賞者 別紙参照

## 平成25年度 支部功労者・優良団体

	支部名	支部功労者	支部功労者	優良団体
1	北海道	谷田 祐子	小野 宣行	札幌市立西野中学校
2	青森	新保 俊彦	佐々木 正美	平川市ソフトテニススポーツ少年団
3	岩手	東澤 信幸	及川 通	岩手県レディースソフトテニス協会
4	宮城	大和田 勝義	戸田 仁志	岩沼市ソフトテニス協会
5	秋田	大久保 繁雄	菅原 孝悦	横手ソフトテニススポーツ少年団
6	山形	山本 一重	松田 幸子	羽黒高等学校ソフトテニス部
7	福島	佐藤 光一	鈴木 数也	二本松ソフトテニスクラブ
8	茨城	木崎 雅久	荻野 和彦	三和クラブ
9	栃木	阿久津 進	大塚 春海	栃木県立那須清峰高等学校ソフトテニス部
10	群馬	金井 直二	佐久間 夏江	伊香保ソフトテニス少年団
11	埼玉	押岡 農子	村田 藤男	アキムソフトテニスクラブ
12	千葉	鳥居 英彰	土屋 善裕	いすみジュニアソフトテニスクラブ
13	東京	榎並 紳吉	根津 鉄也	たちばなクラブ
14	神奈川	柳川 守造	小林 由孝	桜倶楽部
15	山梨	向山 淳	酒井 嘉伸	甲府ストロング
16	新潟	小熊 充	菊地 孝	小千谷ジュニアソフトテニスクラブ
17	長野	田辺 秀弥	宮澤 幸男	あづみ野クラブ
18	富山	水谷 英二	佐々木 博	あさがおクラブ
19	石川	西村 英昭	辰川 勝則	—————
20	福井	赤星 明美	斉藤 隆	わかばクラブ
21	静岡	大畑 晃	平野 修	静岡大学ソフトテニス部
22	愛知	牧野 正巳	金本 智	蒲郡ソフトテニス協会
23	三重	西岡 康行	—	松阪ジュニアソフトテニスクラブ
24	岐阜	國枝 俊子	鈴木 和明	中部電力岐阜ソフトテニスクラブ
25	滋賀	坂井田 稔	郷間 昭一郎	—————
26	京都	那須 一雄	中谷 昌生	クレインズ
27	大阪	下河内 稔	戸田 一代	此花クラブ
28	兵庫	岡中 節子	渡辺 忠	姫路アニマルズ
29	奈良	奥山 和夫	清水 煥弘	高田クラブ
30	和歌山	安井 卯	榎本 弘美	田辺クラブ
31	鳥取	田中英樹	小椋 秀樹	—————
32	島根	山辺 浩司	—	出雲北陵高等学校ソフトテニス部
33	岡山	竹田 浩之	光森 伸一	倉敷ソフトテニス白友会
34	広島	伝田 健治	細川 真示	泉クラブ
35	山口	小林 松太郎	西村 功	周南市役所ソフトテニス部
36	徳島	松本 博志	青木 隆英	アイビージュニア
37	香川	伊加 英隆	—	丸亀ビーチクラブ
38	愛媛	石川 広行	榎 光一郎	愛媛県立川之石高校ソフトテニス部 (女子)
39	高知	関 誠一	鍋島 満子	高知市立南海中学校ソフトテニス部
40	福岡	鵜島 仁通	安村 正夫	—————
41	佐賀	—	—	—————
42	長崎	森光 梅子	高木 敏彦	—————
43	熊本	金森 義信	小嶋 啓	玉名ジュニアソフトテニスクラブ
44	大分	高野 幸男	古後 隆美	—————
45	宮崎	山元 正一	川畑 正一	宮崎県立大宮高等学校女子ソフトテニス部
46	鹿児島	江口 之浩	迫 和代	指宿ジュニアソフトテニスクラブ
47	沖縄	金城 貢	外間 勉	坂田キッズ
	合計		89 名	40 団体

## 平成25年度 ソフトテニスランキング

総 合 男 子				総 合 女 子			
1	桂 拓 也 高 月 拓 磨	学 連	早稲田大学	1	上 原 絵 里 阿 部 悠 梨	東 京	ナガセケンコー
2	篠 原 秀 典 小 林 幸 司	東 京	日体桜友会 ミズノ	2	森 田 奈 緒 山 下 ひ かる	東 京	ヨネックス
2	村 上 雄 人 中 本 圭 哉	広 島	NTT西日本広島	2	小 林 奈 央 石 井 友 梨	学 連	早稲田大学
4	村 田 匠 星 野 慎 平	高体連	高田商業高校	4	柿 崎 あ や の 神 谷 絵 梨 奈	東 京	ヨネックス
4	増 田 健 人 柴 田 章 平	和歌山 京 都	和歌山県庁 同志社クラブ	5	横 山 温 香 藤 崎 安 葉	東 京	ナガセケンコー
6	水 澤 悠 太 長 江 光 一	広 島	NTT西日本広島	6	杉 本 瞳 森 原 可 奈	兵 庫	東芝姫路
7	塩 田 顯 工 藤 浩 輔	学連	日本体育大学	6	深 澤 昭 恵 宮 下 愛 未	兵 庫	東芝姫路
8	松 口 友 也 山 口 大 地	東 京	ヨネックス 日体桜友会	8	加 瀬 祐 佳 脇 田 愛	学 連	早稲田大学
8	高 橋 拓 未 内 山 睦 基	学連	早稲田大学	9	原 野 亜 衣 米 山 芽 玖	福 島	ダンロップ
10	花 田 直 弥 花 田 周 弥	京 都	京都市役所	10	前 田 優 宮 下 愛 美	富 山	タカギセイコー
10	堀 晃 大 岩 崎 圭	広 島	NTT西日本広島	10	植 田 幸 寿 保 姫 野 果 歩	学連	日本体育大学
				10	片 山 冴 古 賀 恵	京 都	ワタキューセイモア

## 平成25年度 ソフトテニスランキング

社 会 人 男 子				社 会 人 女 子			
1	村上 雄人 中本 圭哉	広島	NTT西日本広島	1	森田 奈緒 山下 ひかる	東京	ヨネックス
2	堀 晃大 岩 崎圭	広島	NTT西日本広島	2	片山 冴恵 古賀 恵	京都	ワタキューセイモア
3	花田 直弥 花田 周弥	京都	京都市役所	3	赤松 友美 小林 すみれ	岐阜	太平洋工業
3	水澤 悠太 長江 光一	広島	NTT西日本広島	3	前田 優 宮下 愛美	富山	タカギセイコー
5	山口 大志 中原 寛海	広島	マツダ	5	赤瀬 早紀 曾我部 里穂	岐阜	太平洋工業
5	中堀 成生 向井 俊貴	広島 京都	NTT西日本広島 京都市役所	5	深澤 昭恵 宮下 愛未	兵庫	東芝姫路
5	森山 将貴 新倉 裕二	新潟	新潟トキめきクラブ	5	宮代 恵実 佐藤 千浪	京都	ワタキューセイモア
5	増田 健人 柴田 章平	和歌山 京都	和歌山県庁 同志社クラブ	5	佐々木 舞 大庭 彩加	広島	NTT西日本広島

成 年 男 子				成 年 女 子			
1	成田 智計 村上 広昭	岐阜	大鹿印刷	1	酒井 貴子 花園 安紀	東京	三鷹支部 杉並文化クラブ
2	梅根 裕一 朝倉 勝美	北海道	札幌学院クラブ	2	寺田 祥子 昇 芙美代	三重 大阪	五十鈴クラブ ファニークラブ
3	吉末 尚之 田中 完二	東京	世田谷テニス	3	田中 久代 加藤 美雪	千葉	昭和HD 小金原クラブ
3	片峯 俊和 篠原 和彦	福岡	TOTO	3	藤岡 友子 奥山 奈美	埼玉	岩槻すみれ 浦和テニス

## 平成25年度 ソフトテニスランキング

シニア男子45				シニア女子45			
1	佐々木 賀朗 田中 彰司	大阪 京都	堺連盟 JT関西	1	東 純子 宮崎 由佳子	兵庫 大阪	今津クラブ RISE
2	上松 明裕 橋本 康徳	岡山 京都	岡山市役所 京都市役所	2	中辻 孝子 中西 純子	大阪 兵庫	GLORYクラブ 今津クラブ
3	加藤 健治 藤井 忠彦	愛知	葵クラブ 知立連盟	3	吉田 由香 拜原 みゆき	岩手 宮城	陸前高田市協会 ウィナークラブ
3	千野 一也 堀越 晴夫	山梨 東京	甲府市役所 板橋倶楽部	3	村岡 恵子 佐野 るり子	東京	杉並文化クラブ

シニア男子50				シニア女子50			
1	山田 浩一 堀 貴次	石川	北陸電力石川 NTT西日本金沢	1	中本 安子 久富 貴美代	広島 大阪	五日市クラブ 堺レディース
2	保 高 智 小嶋 英二	埼玉 東京	桶川STC ミドウクラブ	2	山本 悦子 坂井 真由美	愛知 和歌山	すみれクラブ L. C. C
3	富澤 裕次郎 加藤 信弘	福岡 愛知	サンデークラブ 葵クラブ	3	中山 広子 田中 久美子	埼玉	天沼ファミリー 加須婦人クラブ
3	黒岩 真次 鹿島 庄一郎	宮崎	宮崎クラブ 都城商OBクラブ	3	鈴木 明美 江口 京子	新潟 埼玉	長岡レモンクラブ 川口クラブ

シニア男子55				シニア女子55			
1	篠 邊 保 村上 泰夫	愛知 静岡	東邦ガス 静岡商友クラブ	1	江利角 富美子 安達 伸子	大分	スポーツマンシップ
2	清水 信克 西堀 正範	滋賀	大津市協会 村田製作所	2	増田 加奈 荻谷 さと志	愛知	岡崎バード 一宮 花・花
3	中野 大 田中 洋次	和歌山	教友クラブ	3	青木 はな子 犬養 久子	埼玉	川口クラブ 岩槻すみれ
3	原田 和昌 小野 尚彦	兵庫 岡山	加古川クラブ しらかべクラブ	3	菅 美弥子 柏原 敦子	兵庫	垂水クラブ 明石レディース

シニア男子60				シニア女子60			
1	袴田 文雄 菅野 勝郎	秋田 岩手	能代支部 陸前高田市協会	1	神谷 享子 岩原 慶子	愛知	豊田クラブ 岡崎レディースクラブ
2	客坂 忍 宇崎 幸久	兵庫	神戸山手クラブ 新日鐵住金広畑	2	竹下 美智子 酒井 典子	岡山	弥生クラブ 倉敷さわやか会
3	阿部 藤彦 鈴木 敏雄	神奈川	三菱重工相模原 横須賀クラブ	3	後藤 終子 渡辺 伸江	愛知	すみれクラブ
3	新開 均 高原 一郎	徳島 大阪	永遠クラブ 八尾市協会	3	清水 知英子 荒井 真理子	茨城	日立はまゆう すぴりっとクラブ

## 平成25年度 ソフトテニスランキング

シニア男子 65				シニア女子 65			
1	木藤 勝敏 熊田 章甫	大阪 岐阜	大阪OB軟庭会 TEAM KUMA	1	大井 多恵 八木 恵子	愛知	森林クラブ やまとなでしこ
2	折居 明男 伊藤 栄	埼玉 東京	浦和あづまクラブ 旭テニスクラブ	2	酒井 賀代子 杉内 昭代	徳島	徳島県レディース連盟 徳島庭球倶楽部
3	倉田 基康 益田 財治	岡山 山口	岡山南高クラブ 下関白球会	3	土屋 友子 今西 敏子	千葉	茂原クラブ 幸町クラブ
3	保倉 謙治 三宅 宗治	埼玉	熊谷クラブ 越谷クラブ	3	斉藤 雅子 島 幸枝	愛知	豊田なでしこ 岡崎レディースクラブ

シニア男子 70				シニア女子 70			
1	青木 東平 手塚 進	神奈川 千葉	茅ヶ崎クラブ 貝塚中央クラブ	1	高羽 邦子 山田 悦子	大阪	堺ミルフィーズ 東大阪アミー
2	大野 太郎 柳川 真寛	神奈川	ひまわりスポーツ 金剛寺クラブ	2	田中 光子 稲垣 節子	愛知	葵クラブ
3	大淵 保夫 高橋 邦彦	埼玉	川口市勤労者 上福岡クラブ	3	鎌田 節子 中山 徳美	兵庫 奈良	三木クラブ 奈良クラブ
3	小嶋 利勝 高田 晴隆	埼玉 東京	草加松原 言問テニスクラブ	3	林 洋子 幾田 靖子	東京 神奈川	鶴川クラブ 小槻クラブ

シニア男子 75				シニア女子 75			
1	田万 豊廣 辻 喜千治	香川 愛媛	亀城クラブ 大洲連盟	1	住友 康江 福田 久恵	兵庫 大阪	すずらんクラブ 枚方市連盟
2	原田 公夫 石田 政則	鳥取 鹿児島	鳥取久松クラブ 日曜クラブ	2	大久保 初子 関 寿子	愛知 東京	すみれクラブ 寿美礼クラブ
3	佐野 秀則 志賀 正尚	愛知	刈谷クラブ 豊橋クラブ	3	内海 静枝 赤堀 妙子	東京 愛知	世田谷 すみれクラブ
3	園 平治 大滝 正栄	埼玉 茨城	川口クラブ 日立クラブ	3	鵜川 千年 前道 淳子	大阪	サンレディースクラブ 豊中クラブ

シニア男子 80			
1	峯 満 松尾 武雄	徳島 大阪	阿南クラブ 大阪庭球倶楽部
2	伊藤 万里 杉原 英則	京都 大阪	京都二条クラブ 大阪OB軟庭会
3	西村 栄造 明井 雄二	大阪 京都	箕面クラブ 同志社クラブ

## 平成25年度 ソフトテニスランキング

シニア混合 4 5				シニア混合 5 0			
1	千野 一也 平山 浩子	山梨 埼玉	甲府市役所 所沢ペアート	1	金子 由美 関 和 栄 次	神奈川	横浜スマイル 厚木クラブ
2	兒玉 美幸 藤井 忠彦	愛知	大府市連盟 知立連盟	2	大谷 美佐 大谷 本 満 裕	徳島	徳島抽栄会 大神子病院
3	近藤 幸春 平形 明美	愛知	西尾協会	3	久米 佳代 松岡 義 男	香川	若水クラブ
3	中村 早智 浜口 純治	大阪 愛知	堺ミルフィーズ A&U STC	3	川野 辺 武 中山 広子	埼玉	久喜栗橋テニス 天沼ファミリー

シニア混合 5 5				シニア混合 6 0			
1	増田 加奈 小川 博	愛知	岡崎バード 三菱名古屋	1	新開 均 犬伏 恵美子	徳島	徳島抽栄会 永遠クラブ
2	清水 さかゑ 津吉 信也	千葉 愛媛	市原ドリーム 今治連盟	2	杉山 泰久 中谷 順子	埼玉	所沢ペアート
3	小林 孝志 小林 きみ子	埼玉	秩父COCクラブ	3	永井 良一 石井 啓子	茨城	茨城県庁 すぴりっとクラブ
3	尾方 明美 白石 宅男	熊本	球央會 帯山クラブ	3	渡辺 須磨子 宮田 啓資	徳島	永遠クラブ 徳島庭球倶楽部

シニア混合 6 5			
1	木地 孝嘉 木地 佐代子	愛知	七宝町 甚目寺クラブ
2	斉藤 雅子 込山 修	愛知	豊田なでしこ 千種クラブ
3	蟹江 厚佑 富山 郁代	愛知	知多協会 すみれクラブ
3	荒川 長弥 市川 雅子	茨城 静岡	日立SST 葵クラブ

## 平成25年度 ソフトテニスランキング

ジュニアシングルスU - 14男子				ジュニアシングルスU - 14女子			
1	上岡 俊介	大阪	上宮中学校	1	笠井 菜々子	広島	鈴峯女子中学校
2	山根 稔平	東京	清明学園中学校	2	廣澤 真衣	広島	鈴峯女子中学校
3	北本 達己	石川	能美市立寺井中学校	3	今田 早紀	岡山	就実中学校
3	松原 幹	和歌山	橋本ジュニアクラブ	3	田川 美怜	三重	有馬中学校

ジュニアシングルスU - 17男子				ジュニアシングルスU - 17女子			
1	船水 颯人	宮城	東北高等学校	1	泉谷 朋香	大阪	昇陽高等学校
2	内本 隆文	大阪	上宮高等学校	2	尾上 胡桃	広島	鈴峯女子高等学校
3	丸岡 俊介	香川	尽誠学園高等学校	3	青山 みつる	和歌山	和歌山信愛高等学校
3	星野 慎平	奈良	高田商業高等学校	3	三隅 はすは	広島	鈴峯女子高等学校

ジュニアシングルスU - 20男子				ジュニアシングルスU - 20女子			
1	船水 雄太	学連	早稲田大学	1	若田 実友子	福岡	中村学園女子高等学校
2	高崎 直人	宮城	東北高等学校	2	原野 亜衣	福島	ダンロップ
3	坂口 亮太	愛知	東邦ガス	3	杉脇 麻侑子	東京	文化学園大学杉並高等学校
3	玉置 大祐	岐阜	中京高等学校	3	百田 志穂	兵庫	東芝姫路



## 平成25年度 ソフトテニスランキング

男子シングルス				女子シングルス			
1	中本圭哉	広島	NTT西日本広島	1	大庭彩加	広島	NTT西日本広島
2	増田健人	和歌山	和歌山県庁	2	小林奈央	学連	早稲田大学
3	早川和宏	学連	立命館大学	3	吉川明見	学連	天理大学
3	藤本晃生	学連	中京大学	3	水間奈津紀	広島	NTT西日本広島
5	篠原秀典	東京	日体桜友会	5	石井友梨	学連	早稲田大学
5	長江光一	広島	NTT西日本広島	5	上原絵里	東京	ナガセケンコー
5	坂口亮太	愛知	東邦ガス	5	柿崎あやの	東京	ヨネックス
5	高橋拓未	学連	早稲田大学	5	杉本瞳	兵庫	東芝姫路

大学男子				大学女子			
1	高橋拓未 内山睦基	学連	早稲田大学	1	小林奈央 石井友梨	学連	早稲田大学
2	小栗元貴 安藤圭祐	学連	早稲田大学	2	植田幸寿保 姫野果歩	学連	日本体育大学
3	早川和宏 榎恭宏	学連	立命館大学	3	永井理佳 小泉友梨絵	学連	早稲田大学
3	桂拓也 高月拓磨	学連	早稲田大学	3	加瀬祐佳 脇田愛	学連	早稲田大学
5	鈴木亮太 宮澤将征	学連	順天堂大学	5	花野千晶 古川友里恵	学連	東京女子体育大学
5	吉田雄紀 川尻鈴ノ介	学連	早稲田大学	5	柏原真由美 大槻麗	学連	早稲田大学
5	高橋慶次 田中博洋	学連	立教大学	5	石倉朝海 中西麻友	学連	東京経済大学
5	丸中大明 鈴木琢巳	学連	中央大学	5	伊東若葉 田中優美	学連	青山学院大学

## 平成25年度 ソフトテニスランキング

高 校 男 子				高 校 女 子			
1	村 田 匠 星 野 慎平	奈良	高田商業高等学校	1	小 谷 奈津美 小 野 川 優希	広島	広島翔洋高等学校
2	丸 岡 俊介 宮 田 裕章	香川	尽誠学園高等学校	2	杉 脇 麻侑子 佐々木 聖花	東京	文化学園大学 杉並高等学校
3	笠 井 一磨 上 岡 弘人	奈良	高田商業高等学校	3	富 田 真愛 半 谷 美咲	東京	文化学園大学 杉並高等学校
3	岩 佐 和博 北 谷 健二郎	兵庫	市立尼崎高等学校	3	西 岡 真里華 土 井 さくら	三重	三重高等学校
5	安 藤 優作 仲 野 聖矢	岐阜	中京高等学校	5	小 路 彩佳 越 智 あゆみ	福岡	中村学園女子高等学校
5	遠 藤 聡一郎 玉 置 弦也	三重	三重高等学校	5	伊 田 鈴 坂 本 茉梨乃	鳥取	米子松陰高等学校
5	吉 沢 敦希 小 田 桐 康	宮城	東北高等学校	5	西 永 りな 尾 上 胡 桃	広島	鈴峯女子高等学校
5	船 水 颯人 田 口 将	宮城	東北高等学校	5	那 須 暁帆 後 藤 祐佳里	福島	田村高等学校
9	内 本 隆文 丸 山 海斗	大阪	上宮高等学校	9	アライ 柚紀 乙 供 亜美	青 森	八戸工業大学第一高等学校
9	向 井 優太 藤 原 暁	三 重	三重高等学校	9	大 久 保 京香 小 宅 未那美	千 葉	植草学園大学附属高等学校
9	玉 置 大祐 川 崎 政徳	岐 阜	中京高等学校	9	小 山 舞 唐 口 みのり	和 歌 山	和歌山信愛女子 短期大学附属高等学校
9	白 石 努 阿 部 蒼明	宮 城	東北高等学校	9	若 田 実友子 天 満 久留実	福 岡	中村学園女子高等学校
9	小 谷 嘉彦 西 江 祐哉	岡 山	岡山理大附属高等学校	9	高 橋 杏奈 藤 村 茜	岩 手	花巻南高等学校
9	黒 木 雅由 清 本 純平	福 岡	大牟田高等学校	9	相 野 千翔 久 連 松 梨沙	福 岡	中村学園女子高等学校
9	坪 倉 裕太 中 村 健太郎	三 重	三重高等学校	9	秋 田 奈央美 楠 えりか	和 歌 山	和歌山信愛女子 短期大学附属高等学校
9	片 山 諒 濱 田 天成	山 口	長府高等学校	9	百 田 琴音 中 田 依緒里	福 岡	中村学園女子高等学校

## 平成25年度 ソフトテニスランキング

中 学 男 子				中 学 女 子			
1	村上 智基 上松 俊貴	岡山	岡山理大附属中学校	1	大 貫 彩 久我 奈々子	福島	西郷第二中学校
2	田 邊 雅人 佐藤 勇乃介	福島	西郷第二中学校	2	貝瀬 ほのか 吉原 花海	新潟	見附西中学校
3	根 本 大地 北野 亮介	福島	西郷第一中学校	3	清 水 彩 上田 理央	新潟	見附西中学校
3	野 田 陸 池松 光希	福岡	大牟田中学校	3	笠井 奈々子 廣澤 真衣	広島	鈴峯女子中学校
5	戸崎 洸平 松山 晃介	三重	矢渕中学校	5	井出 ひなの 渡邊 有希乃	愛媛	東予東中学校
5	上岡 俊介 広岡 宙	大阪	上宮中学校	5	下江 遥花 浦口 華音	兵庫	太子東中学校
5	三浦 健寛 廣川 潤	新潟	燕中等教育学校	5	大村 美嬉 小林 智佳	兵庫	広畑中学校
5	石川 由樹 荒井 良介	神奈川	領家中学校	5	宮下 真緒 宮下 ころ	石川	中能登中学校

小 学 男 子				小 学 女 子			
1	藤 久 雄士 中別府 凌	兵庫	姫路ジュニアクラブ	1	木 原 那菜 木 原 恵菜	和歌山	和歌山・橋本 ジュニアクラブ
2	松 原 幹 前田 拓夢	和歌山	橋本ジュニアクラブ	2	塩路 ほのか 福田 ゆい	和歌山	日高ジュニアクラブ L. C. C
3	田中 康文 坂本 貫太	宮崎	スターキッズ	3	高橋 美羽 西東 彩菜	埼玉	わかくさテニスクラブ
3	米川 結翔 喜多村 勇人	兵庫	姫路ジュニアクラブ	3	新井 萌未 藤城 みちる	愛知	東海ジュニアクラブ
5	矢野 颯人 浜田 祐	和歌山	和歌山・橋本ジュニアクラブ L. C. C	5	佐古 香織 倉田 莉沙	愛知	東海ジュニアクラブ
5	酒井 光生 佐藤 天太	栃木	BCファイターズ 那須塩原市スポーツ少年団	5	佐藤 梨乃 神田 祐未佳	東京	成瀬ジュニアクラブ
5	澤田 吉広 荒木 駿	山形	酒田スポーツ少年団 鶴岡スポ少	5	杉山 歌音 八橋 乃愛	京都	福知山ジュニアクラブ
5	若月 将太 片平 哲大	栃木	OSTAジュニアアカデミー	5	吉本 珠季 原田 愛果	岡山	倉敷ジュニアクラブ

# 国際大会入賞者

## 第6回東アジア競技大会 ソフトテニス競技 (2013/中国・天津市)

### 1 国別対抗 団長：神崎 公宏

優勝 日本男子チーム

監督：斉藤 広宣      コーチ：中堀 成生      トレーナー：川上 晃司

選手：篠原 秀典・小林 幸司・長江 光一・増田 健人・柴田 章平

優勝 日本女子チーム

監督：田中 弘      コーチ：高川 経生      トレーナー：吉川 友巳奈

選手：杉本 瞳・森原 可奈・宮下 愛未・小林 奈央・横山 温香

### 2 男子シングルス

優勝 長江 光一

### 3 ミックスダブルス

優勝 小林 奈央・長江 光一

### 4 男子ダブルス

優勝 篠原 秀典・小林 幸司

### 5 女子ダブルス

第 2 位 杉本 瞳 ・森原 可奈

第 3 位 小林 奈央・宮下 愛未

7. ソフトテニスの技術等級・指導員資格認定に関する事業

(1) 技術等級の認定を次のとおり行った。

(数値：名)

等級	名誉 指導員	Ma	Ex	S-Ex	Sp	S-Sp	1 級	2 級	3 級	4 級	計
平成 25 年度	1	0	91	22	344	26	350	1,143	1,585	3,354	6,916
平成 24 年度	1	0	88	21	320	12	374	1,109	1,560	3,042	6,527

(注) 平成 25 年度都道府県別認定者数は別表 2 (P48) に掲載

(数値：名)

年 度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
人 数	9,156	7,545	7,446	6,693	6,527	6,916

(2) 技術等級システムを活用して認定手続きを行い資格者管理の効率化を図り、大会申込システムと連動して大会参加資格のチェックを行った。

(3) 技術等級資格取得者を増大するため、大会実績による取得の見直しを図った。

8. ソフトテニスの審判員資格認定に関する事業

(1) 公認審判員の認定を次のとおり行った。

(数値：名)

	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	
マスター レフェリー	64	76	75	60	71	41	
マスター アンパイヤー	38	35	23	18	46	45	
1 級	225	352	324	261	232	215	
2 級	一 般	11,083	9,601	9,577	9,077	9,507	9,380
	高 校	18,578	15,918	17,557	17,574	19,665	18,628
ジュニア	29,094	29,452	31,643	31,318	36,746	36,545	
計	59,082	55,434	59,199	58,308	66,267	64,854	

(注) 平成 25 年度都道府県別認定者数は別表 3 (P49) に掲載

(2) 1 級審判員の検定会 (参加者：103 名) と研修会 (参加者：166 名) を、次のとおり実施した。

	実施期日	会 場	参加者(名)
検定会	平成 26 年 1 月 11 日～12 日	東京都・品川区立総合体育館	52
	平成 26 年 2 月 15 日～16 日	和歌山県・和歌山ビックウェーブ	51
研修会	平成 25 年 12 月 14 日	新潟県・リージョンプラザ上越	11
	平成 26 年 1 月 12 日	東京都・大森スポーツセンター	14
	平成 26 年 1 月 13 日	高知県・高知市東部総合運動場体育センター	14

	平成 26 年 1 月 26 日	岡山県・備前市総合運動公園体育館	40
	平成 26 年 2 月 1 日	愛知県・邦和スポーツランド	9
	平成 26 年 2 月 9 日	福岡県・博多の森テニス競技場	13
	平成 26 年 2 月 11 日	岩手県・北上総合体育館	50
	平成 26 年 2 月 15 日	滋賀県・滋賀県立体育館	15

(3) ソフトテニスハンドブック、ジュニア審判マニュアル等を販売ならびに配布した。

(数値：冊数)

年 度	ソフトテニス ハンドブック	採点票	オーダー票	イエロー カード等	ジュニア審判 マニュアル
平成 25 年度	23,644	5,203	1,330	23,825	41,740
平成 24 年度	23,448	4,837	1,273	23,448	41,300

(4) 派遣審判員の実施

- ・日本連盟主催大会（日本リーグ）に主管支部の所属ブロックから審判員を派遣し、審判員技術と資質の向上を図った。
- ・その他各ブロック等の各種大会において所属都道府県より審判員を派遣し、審判技術を向上させた。

(5) 審判技術 DVD の活用

- ・日本連盟で作成した DVD を審判技術向上のために積極的に活用した。

(6) 審判認定システムを活用して認定手続きと資格者チェックを行い、大会申込システムとの連動を図った。

## 9. ソフトテニス用具・用品、施設の公認

(1) 愛好者・競技者が安全で快適にプレーができるよう用具・用品、施設の公認に関し、次の事業を行った。

①以下新規公認を行った。

泉州敷物株式会社	砂入り人工芝製造業者
株式会社ニューバランスジャパン	シューズ
ダンロップスポーツ株式会社	ボール

①更新手続きを承認した。

(P41(3)維持会費ア.公認メーカー イ.施設業者を参照)

②ラケットの証紙、ネットの証布を発行した。

(数値：枚)

年 度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
ラケット証紙	420,850	353,385	434,124	411,988	431,977	460,146
ネット証布	2,700	3,450	2,500	1,124	3,100	3,400

③ユニフォーム等着用基準のシューズについて「原則白色を基調とし、テニスコートを傷つけないものとする。」から「ソフトテニスに適し、テニスコートを傷つけないテニスシューズとする。」に改訂した。

## II. ソフトテニスの競技力向上事業

### 1. ソフトテニスの競技力向上、医科学研究調査

#### (1) 競技力向上

\*世界No.1の競技力の維持を目指した競技力向上に関し、次の事業を実施した。

##### 1) 競技者育成プログラムの推進

・一貫指導システムの構築を図り、競技者育成プログラムを Step1 から Step5 の過程を経て実施することにより、競技力を向上させた。①、②はスポーツ振興くじ助成事業、③はスポーツ拠点化助成事業として実施。

①Step-1,2 47都道府県で強化を実施した。

〈各支部に対して、400,000円を助成した。〉

②Step-3 (U-14・U-17・U-20/男・女) が8ブロックで下記のとおり強化練習会兼選考会を実施した。

ブロック名	期 日	参加選手数	各支部代表	カテゴリー別指導者	ブロック運営委員	データ管理	日本連盟運営委員	日本連盟強化委員	総 計
北海道・東北 (宮城県・仙台市)	9/6～9/8	149	7	28	4	4	1	1	194
関 東 (群馬県・前橋市)	8/30～9/1	185	7	32	4	4	1	1	234
北信越 (長野県・松本市)	8/30～9/1	118	5	20	4	4	1	1	153
東 海 (三重県・四日市市)	8/22～24	95	4	16	4	4	1	1	125
近 畿 (和歌山県・和歌山市)	8/23～25	142	6	24	4	4	1	1	182
中 国 (広島県・三次市)	8/30～9/1	115	5	20	4	4	1	1	150
四 国 (徳島県・徳島市)	8/23～25	93	4	16	4	4	1	1	123
九 州 (鹿児島県・鹿児島市)	8/30～9/1	176	8	32	4	4	1	1	226
合 計		1,073	46	188	32	32	8	8	1,387

日本スポーツ振興センターの助成事業として46,482,000円の助成を受けた。

③第8回ソフトテニスジュニアジャパンカップ「競技者育成プログラム (Step-4)」を下記のとおり実施した。

期 日：11月15日・18日 (強化練習会兼選考会)

11月16日～17日 (第8回ジュニアジャパンカップ)

会 場：宮崎市生目の杜運動公園テニスコート

選 手：U-14 (男子：40名・女子：38名) 計78名

U-17 (男子：38名・女子：38名) 計76名

U-20 (男子：34名・女子：40名) 計74名

指 導 者：24名 (各カテゴリーの男女別に4名)

運営委員：32名

競技委員：54名

◦Step-5 全日本U-14,U-17,U-20として強化合宿を実施した。

- ・一貫指導システム確立のための指導理念、指導法ならびに指導内容の検討
- ・競技者育成プログラムを推進するために指導マニュアルを活用して推進した。
- ・「指導教本」「コーチ教本」「指導マニュアル」「DVD 世界に飛ばたけトッププレーヤーへの道」の更なる検討そして改訂について継続して協議した。

2) ナショナルチーム及び日本代表チームの強化合宿

①ナショナルチーム（男子、女子）は年6回の強化合宿を次のとおり実施した。

性別	回数	実施期日	参加者(名)		会場
			スタッフ	選手	
男子	1	平成25年4月21日～4月27日	4	16	広島県・広島市
	②	平成25年6月6日～6月11日	5	7	大阪府・大阪市
	③	平成25年7月5日～7月10日	3	7	宮崎県・宮崎市
	④	平成25年8月29日～9月1日	3	5	東京都・江東区
	⑤	平成25年9月13日～9月18日	3	7	宮崎県・宮崎市
	6	平成26年3月13日～3月18日	3	18	宮崎県・宮崎市
女子	1	平成25年4月11日～4月16日	4	16	広島県・広島市
	②	平成25年6月6日～6月11日	5	8	大阪府・大阪市
	③	平成25年7月5日～7月10日	3	7	宮崎県・宮崎市
	④	平成25年8月29日～9月1日	3	5	東京都・江東区
	⑤	平成25年9月13日～9月18日	3	7	宮崎県・宮崎市
	6	平成26年3月13日～3月18日	3	16	宮崎県・宮崎市

(注1) 上記強化合宿は(公財)日本オリンピック委員会の補助事業である。(6,300,000円)

(注2) 上記②③④⑤は日本代表チーム強化合宿

②全日本U-14.U-17.U-20（男子、女子）強化合宿を次のとおり実施した。

性別	カテゴリー	実施期日	参加者(名)		会場
			スタッフ	選手	
男子	U-20	平成25年6月7日～6月9日	3	15	東京都・北区
	☆U-20	平成26年2月15日～2月20日	3	16	三重県・四日市市
	U-17	平成25年5月11日～5月16日	3	20	和歌山県・和歌山市
	(日韓中ジュニア代表チーム)	平成25年8月20日～8月22日	3	6	大阪府・大阪府
	☆U-17	平成26年2月15日～2月20日	3	20	三重県・四日市市
	U-14	平成25年6月18日～6月23日	3	20	三重県・鈴鹿市
	☆U-14	平成26年2月15日～2月20日	3	20	三重県・四日市市
女子	U-20	平成25年4月10日～4月14日	3	12	富山県・高岡市
	U-20	平成25年9月10日～9月13日	3	11	広島県・広島市
	☆U-20	平成26年2月8日～2月13日	3	12	三重県・四日市市



U-17	平成 25 年 5 月 11 日～ 5 月 16 日	3	18	和歌山県・和歌山市
(日韓中ジュニア 代表チーム)	平成 25 年 8 月 20 日～8 月 22 日	3	6	大阪府・大阪府
☆U-17	平成 26 年 2 月 1 日～ 2 月 6 日	3	20	三重県・鈴鹿市
U-14	平成 25 年 6 月 18 日～ 6 月 23 日	3	20	三重県・鈴鹿市
☆U-14	平成 26 年 2 月 8 日～ 2 月 13 日	3	20	三重県・四日市市

(注 3) ☆印は、日本スポーツ振興センターの助成事業である。(6,750,000 円)

### 3) 競技力向上のための海外遠征

・次の国際大会へ選手を派遣し、競技力の向上を図った。

#### \*第 12 回チャイナカップ

中国・天津市において、8 月 11 日（日）～8 月 15 日（木）まで行われた標記大会に、次の選手団を派遣した。

#### ア. 選手団

スタッフ	中堀成生（男子ナショナルチームコーチ） 川上晃司（男子ナショナルチームトレーナー） 田中 弘（女子ナショナルチーム監督） 高川経生（女子ナショナルチームコーチ） 吉川友巳奈（女子ナショナルチームトレーナー）
男子選手	篠原秀典（日体桜友会） 小林幸司（ミズノ） 長江光一（NTT 西日本広島） 増田健人（和歌山県庁） 柴田章平（同志社クラブ） 鈴木琢己（中央大学） 丸中大明（中央大学） 久島一馬（早稲田大学） 船水雄太（早稲田大学） 工藤浩輔（日本体育大学）
女子選手	杉本 瞳（東芝姫路） 森原可奈（東芝姫路） 宮下愛未（東芝姫路） 小林奈央（早稲田大学） 横山温香（ナガセケンコー） 大槻 麗（早稲田大学） 山口真未（ナガセケンコー） 中川瑞貴（高岡西高校）

イ. 参加国 日本 中国 韓国 中華台北 北朝鮮 インド モンゴル

ウ. 成績 国別対抗戦 男子：優勝 女子：優勝  
男子シングルス 優勝：船水雄太

#### \*第 21 回日・韓・中ジュニア交流競技会（ソフトテニス）

中国・潍坊市において、8 月 24 日（土）～8 月 28 日（水）まで行われた標記大会に、次の選手団を派遣した。

#### ア. 選手団

団 長	西村信寛（日本連盟副会長）
男子監督	池田征弘（全日本 U-17 男子チーム監督）
女子監督	岡村勝幸（全日本 U-17 女子チーム監督）
男子選手	船水颯人（東北高校） 星野慎平（高田商業高校）

	内本隆文（上宮高校）	安藤優作（中京高校）
	丸山海斗（上宮高校）	榊原耕平（北海道尚志学園高校）
女子選手	平久保安純（和歌山信愛高校）	尾上胡桃（鈴峯女子高校）
	若田実友子（中村学園女子高校）	泉谷朋香（昇陽高校）
	小谷菜津美（広島翔洋高校）	佐々木聖花（文化学園大学杉並高校）
イ. 参加国	日本、韓国、中国	
ウ. 成績	男子：2勝1敗　女子：3勝	

\*第6回東アジア競技大会

中国・天津市において10月10日（木）～10月14日（月）まで行われた標記大会に、次の選手団を派遣した。

ア. 選手団	
団長	神崎公宏（理事・強化委員長）
男子監督	斉藤広宣（男子ナショナルチーム監督）
コーチ	中堀成生（男子ナショナルチームコーチ）
トレーナー	川上晃司（男子ナショナルチームトレーナー）
男子選手	篠原秀典（日体桜友会）　小林幸司（ミズノ）
	長江光一（NTT西日本広島）増田健人（和歌山県庁）
	柴田章平（同志社クラブ）
女子監督	田中 弘（女子ナショナルチーム監督）
コーチ	高川経生（女子ナショナルチームコーチ）
トレーナー	吉川友巳奈（女子ナショナルチームトレーナー）
女子選手	杉本 瞳（東芝姫路）　森原可奈（東芝姫路）
	宮下愛未（東芝姫路）　小林奈央（早稲田大学）
	横山温香（ナガセケンコー）
役員	工藤敏己（医科学部会委員）山本裕二（医科学部会委員）
イ. 参加国	日本 中国 中華台北 韓国 北朝鮮 モンゴル
ウ. 成績	男子団体　優勝
	女子団体　優勝
	男子シングルス　優勝：長江光一
	男子ダブルス　優勝：篠原秀典・小林幸司
	女子ダブルス　準優勝：杉本 瞳・森原可奈
	第三位：小林奈央・宮下愛未
	ミックスダブルス　優勝：小林奈央・長江光一

\*第1回インド国際大会

インド・アーメダバード市にて12月5日（木）～12月8日（日）まで行われた標記大会に、次の選手団を派遣した。

ア. 選手団	
団長	斉藤元三（日本連盟理事）

役 員	松井愛美（日本連盟国際委員）	
強化スタッフ	小峯秋二（女子 U-20 チーム監督）	
	浅川陽介（男子 U-17 チームコーチ）	
	吉川友巳奈（女子ナショナルチームトレーナー）	
男子選手	塩田 顯（日本体育大学）	工藤浩輔（日本体育大学）
	今田瑞基（日本体育大学）	船水颯人（東北高校）
	星野慎平（高田商業高校）	上松俊貴（岡山理大付属中学校）
女子選手	森田奈緒（ヨネックス）	貝瀬ほのか（見附西中学校）
	松家 梓（東芝姫路）	平久保安純（和歌山信愛高校）
	中川瑞貴（高岡西高校）	尾上胡桃（鈴峯女子高校）
イ. 参加国	日本 韓国 ネパール インド	
ウ. 成績	男子シングルス	優勝：船水颯人 準優勝：今田瑞基 第三位：上松俊貴 塩田顯
	女子シングルス	優勝：森田奈緒 準優勝：平久保安純 第三位：貝瀬ほのか 中川瑞貴
	男子ダブルス	優勝：塩田顯・工藤浩輔
	女子ダブルス	優勝：中川瑞貴・尾上胡桃 準優勝：森田奈緒・松家梓 第三位：平久保安純・貝瀬ほのか
	ミックスダブルス	優勝：森田奈緒・工藤浩輔 準優勝：貝瀬ほのか・上松俊貴 第三位：平久保安純・船水颯人 中川瑞貴・星野慎平

\*ワタキューカップ国際大会

イタリア・ローマ市において、9月11日（水）～9月15日（日）まで行われた標記大会に、次の選手を派遣した。

ア. 選手		
男子選手	村上雄人（NTT 西日本広島）	中本圭哉（NTT 西日本広島）
女子選手	上原絵里（ナガセケンコー）	阿部悠梨（ナガセケンコー）
イ. 参加国	日本 イタリア 韓国 タイ インドネシア マカオ 南アフリカ アメリカ チェコ スロヴァキア ポーランド ハンガリー	
ウ. 成績	男子シングルス	優勝：村上雄人
	女子シングルス	優勝：上原絵里
	男子ダブルス	第3位：村上雄人・中本圭哉
	女子ダブルス	優勝：上原絵里・阿部悠梨

4) 強化スタッフの各種大会視察

・強化スタッフ・強化委員を次のとおり各種大会に派遣した。

大会名	派遣者
東アジア競技大会日本代表予選会	斉藤広宣 中堀成生 田中弘 高川経生 小野寺剛 中津川澄男 小峯秋二
全日本シングルス選手権大会	斉藤広宣 中堀成生 田中弘 高川経生 中津川澄男 小峯秋二 浅川陽介
ハイスクールジャパンカップ	池田征弘 岡村勝幸
全日本小学生選手権大会	橋本康徳
全日本社会人選手権大会	沼崎優子
全日本高校選手権大会	浅川陽介
全国中学校大会	篠邊保 安達和紀 鈴木明子
全日本選手権大会	斉藤広宣 田中弘 高川経生 小野寺剛 小峯秋二
都道府県対抗全日本中学生大会	岡村勝幸 安達和紀

## (2) 医科学研究調査

①医科学スタッフによるサポート及びトレーナーズテントの設営を実施した。

- ・シングルの強化対策を実施した。
- ・陣形に応じた対応策を研究した。
- ・国内大会での撮影及び映像分析、国際大会における戦術分析を行った。
- ・国内大会でトレーナーズテントを設営した。
- ・栄養調査を実施し、その分析結果をもとに指導した。

②各種フィットネステストデータを分析し、競技力向上に役立てた。

③医科学研究報告書を作成・発行し、指導現場に役立てた。

## (3) アンチ・ドーピング

①アンチ・ドーピングに関する教育・啓発活動

- ・(公財)日本アンチ・ドーピング機構と連携して、ホームページや大会要項等への情報掲載や強化合宿での指導等、ドーピング防止の普及啓発活動を実施して、スポーツの公平性を競技者に理解させ健全な精神の育成を図った。

②国内大会におけるドーピング検査の実施

- ・東アジア競技大会日本代表選手予選会、全日本シングルス選手権大会、全日本選手権大会、全日本インドア選手権大会で実施し、日本スポーツ振興センターより 3,801,000 円の助成を受けた。

③国際連盟およびアジア連盟と連携してのアンチ・ドーピング活動の推進

- ・平成 25 年 10 月に中国天津市で開催された東アジア競技大会の機会に参加各国の監督を集め、アンチ・ドーピングについての説明を行い、周知徹底を図った。

## 2. ソフトテニスの指導者育成

### (1) 指導者養成

①指導者養成事業の推進

- ・指導者養成講習会を次のとおり実施した。
  - ア．指導員養成講習会専門科目開催事業 14 会場  
実施都道府県  
(北海道、秋田県、福島県、東京都、山梨県、長野県、石川県、静岡県、岐阜県、  
広島県、徳島県、熊本県、大分県、沖縄県)
  - イ．上級指導員養成講習会専門科目開催事業 1 会場  
実施都道府県  
(福井県)
  - ウ．スポーツ専門学校 1 会場  
(履正社医療スポーツ専門学校)
- ・指導者養成講習会（各都道府県連盟）を「公認スポーツ指導者養成マニュアル」を活用して積極的に実施し、公認スポーツ指導者の拡大を図り、地域の普及活動を充実させた。
- ・公認スポーツ指導者の活用方法の検討を行った。
- ・中・高等学校指導者育成のための方策を検討した。
- ・「指導教本」、「コーチ教本」の改訂作業を行った。平成 23 年度より検討している新教本の改訂作業を進め、日本連盟創立 90 周年を迎える平成 26 年度に新しい DVD 付指導教本の完成を目指して指導委員会と強化委員会が中心となって取り組んだ。
- ・シングルス練習用マニュアル（DVD 版）の活用を図った。
- ②全国小学生・中学生・高校生の指導者の合同研修会を実施した。（26 年 1 月 18 日・19 日大阪）
  - ・小学生、中学生、高校生へのソフトテニス活動における課題の改善について検討した。
  - ・競技者育成プログラムの現状を把握し、さらなる推進に向けて協議を行った。
  - ・シングルスの競技力向上及び普及促進に関する対策を検討した。
  - ・スポーツ活動を通して環境保全ならびに青少年の健全育成を推進した。
  - ・スポーツ界における暴力の根絶について指導者としてあるべき姿について議論した。
  - ・暴力行為の根絶徹底のため、指導基本規程の制定および通報窓口と指導基本規程違反の処理機関の設置について周知した。
  - ・スポーツ活動における指導者に相応しい行動について指導徹底した。
  - ・日本スポーツ振興センターより 1,082,000 円の助成を受けた。
- ③指導者バンク（日本連盟）の活用推進  
競技者育成プログラム及び指導者養成推進等のため日本連盟として指導者バンクを活用した。
  - ・日本連盟指導者バンク登録指導者の活用  
Step-5 におけるナショナルチームや全日本アンダーチームの監督、コーチとしての活動。  
Step-4 における各カテゴリーの指導者としての活動。  
Step-3 における支部代表指導者または日本連盟指導者としての活動。
- ④指導者バンク（地域）の活用推進
  - ・積極的に指導者バンク（地域）を活用して、競技者育成プログラム（Step1, 2）の推進及び中学、高校の指導者不足を解消する等、普及を担う指導者の確保に努力した。
  - ・ジュニア層指導者の資格取得を促進した。（指導員・審判・技術等級）

### Ⅲ. ソフトテニスの国際振興事業

#### 1. ソフトテニスの国際振興

##### (1) 国際普及活動の推進

###### ①国際組織（ISTF, ASTF）内での指導的立場に基づく国際性の向上

- ・サンクトペテルブルク（ロシア）で5月28日～6月4日まで開催された<sup>(注)</sup>スポーツアコードコンベンションに笠井達夫専務理事と丹崎健一国際委員長、赤須由佳氏（通訳）が参加、スポーツアコードの総会出席の他、各会議や展示会を通じてソフトテニスのアピールと他競技団体役員との交流を図った。

(注) スポーツアコードコンベンションとは非オリンピックスポーツを含む国際スポーツ組織や団体を束ねるスポーツアコードの年次総会を含むスポーツコンベンションで、IOC関係者も数多く参加

- ・ヨハネスブルク(南アフリカ)で11月12日～11月17日まで開催された世界アンチ・ドーピング会議（WADA）の総会に笠井達夫専務理事と丹崎健一国際委員長が参加、総会におけるアンチ・ドーピング規程改訂内容を確認し、各種研修会等を通じてソフトテニスのアピールと他競技団体役員との交流を図った。

###### ②普及対象国への指導者、選手の派遣および普及対象の選手、指導者の日本での研修受入れ

- ・5月31日～6月2日に開催されたドイツソフトテニスオープン大会に、フランクフルト市と横浜市とのパートナーシップの一環として、引率者1名と選手5名を派遣した。
- ・パラグアイ・イグアス日本人会より指導者派遣の要望を受けた中村奏太氏が赴任時にアルゼンチン、ブエノスアイレスへ立ち寄り普及指導を行った。
- ・10月16日～21日にドイツ連盟会長およびフランクフルト市教員が横浜市との文化交流の一環として来日し、フランクフルト市と日本のソフトテニス活動を視察するとともに、今後の普及・振興について打合せを行った。

###### ③用具の提供、流通の促進

- ・以下用具・用品の支援を行った。

ア. アルゼンチン、ドイツ、インドにボール、ラケットを送付

イ. チャイナカップ、東アジア競技大会、アジアカップひろしま大会時に参加国にラケット、ボール、ネットを支援

送付数量（ア.イ.合計）：ボール=120打、ラケット=145本、ネット=10張

###### ④普及指導用諸教材の整理・追加作成および普及活動への活用

- ・紹介用プレゼンテーションDVD、紹介用パンフレットを活用した。
- ・技術指導DVD（基礎技術、応用技術、練習方法、競技、審判各編）、解説書等を活用した。
- ・諸規定集（ルールブック、審判DVD等）を活用した。

###### ⑤国際普及親善活動に結びつく支部等の活動に対しての「国際親善大会補助」としての助成

- ・国際普及親善活動に結びつく活動に対して、以下の支部等に「国際親善大会補助」の助成を行った。

北海道連盟、神奈川県連盟、福井県連盟、大阪府連盟、広島県連盟、山口県連盟、香川県連盟、福岡県連盟、宮崎県連盟、近畿連盟、日本学連

###### ⑥その他の国際普及活動

- ・7月8日に開催された第9回ワールドゲームス大会（カリ大会）壮行会へ丹崎健一国際委員長、

柳下秋久理事、玉木進事務局次長が参加した。

<助成>

- ・国際大会派遣助成として宮城県連盟にチャイナカップに参加した東北高校所属選手9名分、ダンロップ所属選手7名分の助成を行った。
- ・ハワイへの普及・振興のため奈良県連盟を通して助成を行った。

(2) 国際指導体制、審判体制の充実

①国際指導員制度（ASTF）と国際審判員制度(ASTF)の推進

②ISTF,ASTF のアンチ・ドーピング活動推進

- ・ASTF ホームページにアンチ・ドーピングについての説明を掲載した。
- ・第6回東アジア競技大会時に、参加各国監督にアンチ・ドーピングの講習を行うとともに、10検体の競技内検査を実施した。

(3) 国際大会の開催促進

\*国際競技大会の参加種目への招致活動及び大会運営を支援した。

①第6回東アジア競技大会（2013年天津）の運営支援

②第2回世界ジュニア選手権大会（2014年インド開催予定）の準備

③第17回アジア競技大会（2014年仁川）の準備

④第18回アジア競技大会（2019年ベトナム）への招致活動

(4) 国際組織（ISTF、ASTF）への活動

①2013年東アジア競技大会(中国・天津市)の運営支援

②各国の協力体制、財政基盤の確立、組織運営についての検討

③英語版ウェブサイト（ASTF)の構築による国際情報発信の推進

(5) ISTF、ASTF 加盟国連盟との打ち合わせ他

- ・韓国連盟事務局長他が4月11日と4月12日に来日し、今後の国際普及・振興について打合せを行った。
- ・5月6日～5月8日まで笠井達夫専務理事と丹崎健一国際委員長が東アジア競技大会打合せのため中国（天津市）を訪問した。
- ・ネパール連盟会長が5月10日から来日し、今後の普及・振興について打合せを行った。
- ・5月13日と14日に笠井達夫専務理事と丹崎健一国際委員長が国際連盟との打合せのため、韓国を訪問した。
- ・8月12日～14日に中国で開催されたチャイナカップへ笠井達夫専務理事が訪問し、今後の国際大会等について打合せを行った。
- ・9月12日～9月14日まで笠井達夫専務理事と福崎穰司国際委員がイタリアで開催されたワタキューカップ大会へ参加し、会場視察と本大会の今後の開催地やヨーロッパでのソフトテニス振興についての打合せを行った。
- ・9月23日と9月24日に西村信寛副会長と笠井達夫専務理事、丹崎健一国際委員長が国際連盟朴会長、鄭副事務総長と国際連盟の運営について、国際大会開催などの打合せのため韓国を訪問した。
- ・2014年3月7日と3月8日に広島県で開催されたアジアカップひろしま大会に西村信寛副会長、笠井達夫専務理事、丹崎健一国際委員長、表浚賢事務局職員が訪問し、参加国である韓国、中華台北、モンゴル、ロシア、インド、インドネシアと国際普及・振興、国際大会開催などにつ

いて打合せを行った。

- ・3月11日から3月13日まで笠井達夫専務理事と丹崎健一国際委員長、裴浚賢事務局職員がアジア競技大会打合せのため韓国を訪問し、仁川アジア競技大会組織委員会等と打合せを行った。

## 【各事業を推進するための組織と財政の強化】

### I. 組織と財政の強化

#### 1. 組織と財政の強化の推進

公益財団法人としての高い社会的信用を維持し公益目的事業を行うために、組織体制の強化と財政運営に取り組んだ。

#### 2. 環境と教育への取り組み

ソフトテニスを通じて環境と教育に取り組んだ。ソフトテニスを通じて環境保全を図っていくとともに、自己責任及びフェアプレイの精神を身につけ、マナーを重んじる教育を推進し、青少年の健全育成を図った。

①大会や強化事業を実施する際にごみの分別等を行うなど、スポーツ活動を通して環境保全を図り、スポーツをする人たち、見る人たちも平等しく地球人として環境保全を推進するため、物を大切に生活習慣を徹底した。

- ・連盟主催大会での横断幕・ポスター・リーフレット・プログラム等の掲出と配布を実施した。
- ・大会会場でのごみの持ち帰り及び分別推進とマイボトルの推進を図った。
- ・スポーツと環境保全シンポジウム等の会議に積極的に参加した。

②スポーツマンとしての倫理教育、青少年の健全育成の推進

- ・スポーツ活動を通して青少年の自己責任やフェアプレイの精神などを身につけると共に、仲間との交流を通じて、コミュニケーション能力の育成や他人に対する思いやりなど、豊かな人間性を育てる青少年の健全育成に取り組むと共にソフトテニスが誰にでも誇れる格調高い競技を目指した。
- ・試合終了後の握手の励行を行った。
- ・「フェアプレイで日本を元気に」フェアプレイ宣言キャンペーン活動を継続推進した。
- ・マナーキッズプロジェクト（NPO）と連動し、ショートテニスを通じて日本の伝統的な礼法を体験させ、＜体・徳・知＞バランスのよい子供を育てる活動を推進した。
- ・全国指導者研修会議（小中高の指導者が各都道府県から各3名づつ参加して26年1月に実施）において「フェアプレイ、マナー、すばらしい大会にするには、暴力行為の根絶」をテーマに検討会を実施した。

#### 3. 会員登録制度の推進

平成11年度に制定した会員登録制度も14年を経過した。IT化により実務の効率化と迅速化を図り、平成17年度から小・中学生も有料化、平成20年度からは会員登録料納付システムの導入を図ることにより本制度は定着した。そして、各支部を中心とした多くの関係者のご努力とご協力により順調に会員登録が増加して、財政基盤も強固なものとなってきている。

①会員登録制度の定着および充実

- ・制度の周知徹底を図り会員登録を定着させ、さらに推進した。

②会員登録手続きの効率化



- ・会員登録システムの活用を向上し、事務効率化を図った。
- ・会員登録システム担当者引継袋の利用を徹底し、登録事務引継の円滑化を図った。
- ・会員登録システムに連動し、審判、技術等級の認定管理を行った。
- ・平成 24 年度より会員登録システムに連動して実施した、日本連盟主催大会申し込みの IT 化を支部大会でも活用できるようにするため試行し、平成 26 年秋からの実施に向けて開発を行った。
- ・会員証及び会員報配布の各団体への直接送付を継続し、支部関係者の事務負担の軽減を図った。
- ・会員登録料納付システムの活用による会費および大会参加料等の早期かつ正確な納付による円滑な資金管理を推進した。

### ③会員報の発行

- ・年 2 回（9 月、2 月）会員報を発行して、会員登録料の使途及び日本連盟の情報を会員に周知した。

### ④登録状況の把握と改善

- ・支部別及び階層別の団体数と会員数等を把握した。
- ・会員登録有料化からの階層別会員登録推移の検証・分析を実施した。

## 4. 暴力行為の根絶

暴力行為の根絶のため、指導基本規程を制定し、通報窓口と指導基本規程違反の処理機関として、違反救済申立処理委員会を各支部（各都道府県連盟、日本学連、全国高体連、日本中体連）に、違反救済審査委員会を日本連盟に設置することが、評議員会で議決され、平成 26 年 4 月 1 日よりスタートすることになり、各支部への周知を行った。

## 5. ソフトテニス創始 130 周年（日本連盟創立 90 周年）記念事業実施準備

2014 年のソフトテニス創始 130 周年、日本ソフトテニス連盟創立 90 周年記念事業（1924 年創立）実施のための準備を行うとともに、この機に 2020 年東京オリンピックに向けてソフトテニスを広くアピールするための指導教本（DVD BOOK）、映画、漫画の制作のための準備を行った。

## 6. 長期基本計画 2012 の推進

長期基本計画 2012 に基づく課題について進捗状況を把握し、着実に推進した。

## (庶務事項)

### 1. 評議員会に関する事項

#### (1) 定時評議員会

ア. 期 日 平成 25 年 6 月 16 日 (日) 正午 開会

イ. 会 場 アワーズイン阪急 3階会議室「A・B」

ウ. 決議事項

- ①評議員の選任について
- ②役員を選任について
- ③平成 24 年度事業報告書 (案) について
- ④平成 24 年度決算報告書 (案) について
- ⑤平成 25 年度第 1 次補正予算 (案) について

#### (2) 臨時評議員会

ア. 期 日 平成 25 年 12 月 1 日 (日) 午前 9 時 30 分 開会

イ. 会 場 アワーズイン阪急 3階会議室「A・B」

ウ. 決議事項

- ①評議員の選任について
- ②平成 25 年度第 2 次補正予算 (案) について
- ③平成 26 年度事業計画 (案) について
- ④平成 26 年度収支予算書 (案) について
- ⑤スポーツにおける暴力の根絶に向けての諸施策について
- ⑥国民体育大会シングルス導入による参加枠について
- ⑦大会要項の改訂について
- ⑧ユニフォーム等の着用基準の改訂について
- ⑨平成 26 年度評議員会日程 (案) について

### 2. 理事会に関する事項

#### (1) 第 1 回理事会

ア. 期 日 平成 25 年 5 月 23 日 (木) 正午 開会

イ. 会 場 (公財) 日本ソフトテニス連盟会議室

ウ. 議決事項

- ①平成 24 年度事業報告書(案)および決算報告書(案)について
- ②平成 25 年第 1 次補正予算(案)について
- ③役員の変更について

#### (2) 第 2 回理事会

ア. 期 日 平成 25 年 6 月 15 日 (土) 13 時 開会

イ. 会 場 (公財) 日本ソフトテニス連盟会議室

ウ. 議決事項

- ①評議員、役員の変更について
- ②優秀監督および優秀選手表彰基準の改訂について
- ③平成 25 年度定時評議員会提案事項の確認について
- ④用具・用品の公認申請について

(3) 第 3 回理事会

ア. 期 日 平成 25 年 10 月 20 日 (日) 正午 開会

イ. 会 場 (公財) 日本ソフトテニス連盟会議室

ウ. 議決事項

- ①用具・用品の公認申請について
- ②国民体育大会シングルス導入による参加枠について
- ③参与の交代について

エ. 審議事項

- ①平成 25 年度第 2 次補正予算(案)について
- ②平成 26 年度事業計画(案)、予算(案)について
- ③暴力行為等の根絶について

(4) 第 4 回理事会

ア. 期 日 平成 25 年 11 月 9 日 (土) 正午 開会

イ. 会 場 (公財) 日本ソフトテニス連盟会議室

ウ. 議決事項

- ①平成 25 年度第 2 次補正予算(案)について
- ②平成 26 年度事業計画書(案)について
- ③平成 26 年度収支予算書(案)について
- ④評議員の選任について
- ⑤用具・用品の公認申請について
- ⑥指導基本規程、指導基本規程違反救済申立処理委員会及び指導基本規程違反救済審査委員会規程について

エ. 審議事項

- ①平成 25 年度本部功労者、支部功労者、優良団体、国際大会入賞者表彰、および第 62 回日本スポーツ賞 (案) について
- ②大会要項の改訂について
- ③番組編成方針の改訂について
- ④ユニフォーム着用基準の改訂について

(5) 第 5 回理事会

ア. 期 日 平成 25 年 11 月 30 日 (土) 午前 11 時 開会

イ. 会 場 (公財) 日本ソフトテニス連盟会議室

ウ. 議決事項

- ①用具・用品の公認申請について
- ②平成 26 年度評議員会日程（案）について
- ③平成 26 年ナショナルチームおよび全日本アンダーチームの選手について
- ④第 59 回全日本インドア選手権大会 出場選手について
- ⑤平成 25 年度臨時評議員会提案事項の確認について

エ. 審議事項

- ①ユニフォーム着用基準の改訂について

(6) 第 6 回理事会

ア. 期 日 平成 26 年 2 月 22 日（土）正午 開会

イ. 会 場 （公財）日本ソフトテニス連盟会議室

ウ. 議決事項

- ①指導基本規程違反救済審査委員会の設置について
- ②用具・用品の公認について

3. 専門委員会等に関する事項

(1) 各専門委員会等諸会議が、次のとおり開催された。

月	日	専門委員会（部会）名	会 場
4	8	機関誌編集部会	日本連盟会議室
	13	プログラム編成部会	日本連盟会議室
	19	環境・教育プロジェクト	日本連盟会議室
	20	プログラム編成部会	日本連盟会議室
	22	IT 部会	日本連盟会議室
	27	強化会議	ひろしま国際ホテル
5	3	総務委員会	日本連盟会議室
	10	環境・教育プロジェクト	日本連盟会議室
	11	機関誌編集部会	日本連盟会議室
	19	強化委員会	パークドーム熊本
6	8	総務委員会	日本連盟会議室
	9	審判委員会	日本連盟会議室
	10	機関誌編集部会	日本連盟会議室
	22	プログラム編成部会	日本連盟会議室
7	8	機関誌編集部会	日本連盟会議室
	22	IT 部会	日本連盟会議室
	24	プログラム編成部会	日本連盟会議室
8	10	プログラム編成部会	日本連盟会議室
	11	プログラム編成部会	日本連盟会議室
	30	機関誌編集部会	日本連盟会議室
	31	プログラム編成部会	日本連盟会議室

9	24	機関誌編集部会	日本連盟会議室
	28	競技委員会	日本連盟会議室
	28	連盟創立90周年準備委員会記念誌部会	日本連盟会議室
	28	指導委員会	アワーズイン阪急会議室
	29	環境・教育プロジェクト	日本連盟会議室
	29	プログラム編成部会	日本連盟会議室
10	12	プログラム編成部会	白子町サニーテニスコート
	19	大会要項打ち合せ会議	日本連盟会議室
	19	広報委員会	日本連盟会議室
	19	国際委員会・国際振興プロジェクト合同会議	日本連盟会議室
	24	機関誌編集部会	日本連盟会議室
	30	プログラム編成部会	東京都連盟事務局
11	4	生涯スポーツ委員会	日本連盟会議室
	8	IT 部会	日本連盟会議室
	27	機関誌編集部会	日本連盟会議室
	30	新教本編集委員会	日本連盟会議室
12	14	指導教本作成会議（強化スタッフ）	日本連盟会議室
	15	指導教本作成会議（強化スタッフ）	日本連盟会議室
	23	連盟創立90周年準備委員会記念誌部会	日本連盟会議室
	26	機関誌編集部会	日本連盟会議室
1	19	生涯スポーツ委員会	大阪アカデミア会議室
	19	小学生部会	大阪アカデミア会議室
	26	医科学研究部会	日本連盟会議室
	27	IT 部会	日本連盟会議室
	29	機関誌編集部会	日本連盟会議室
2	1	指導教本作成会議（医科学他）	大阪中央体育館
	2	強化スタッフ会議	大阪中央体育館
	23	審判委員会	アワーズイン阪急会議室
	23	プログラム編成部会	日本連盟会議室
3	3	機関誌編集部会	日本連盟会議室
	15	連盟創立90周年準備委員会式典部会	日本連盟会議室
	16	強化スタッフ会議	シーガイアテニスアカデミー
	17	強化スタッフ会議	シーガイアテニスアカデミー
	17	指導教本作成会議	シーガイアテニスアカデミー

(2) 監査等が、次のとおり実施された。

月	日	事業内容	会 場
5	16・17	公認会計士による指導	日本連盟会議室
5	21・22	監事による監査	日本連盟会議室
1	31	公認会計士による中間監査	日本連盟会議室

4. 役員・事務局職員に関する事項

(1) 平成25年度（平成26年度定時評議員会まで）

名誉会長・名誉副会長・理事22名

役 職	氏 名
名誉会長	海 部 俊 樹
名誉副会長	林 敏 弘

役 職	氏 名	選出母体	役 職	氏 名	選出母体
会 長	表 孟 宏	学識経験者	理 事	木原晴彦	中 国
副 会 長	西村信寛			安藤正美	四 国
副 会 長	小原信幸			吉田博紀	九 州
専務理事	笠井達夫			松谷 茂	全国高体連
常務理事	和歌浦 信雄	北 信 越		林 昭 文	日本中体連
	柳下秋久	会長推薦		丹崎健一	会長推薦
	田中正男			神崎公宏	
理 事	川島 登	北海道・東北		北本英幸	
	星野 博	関 東		野際照章	
	斉藤元三	東 海		大川京子	
	山本 毅	近 畿	井上清一		

(2) 平成25年度（平成26年度定時評議員会まで） 監 事 3名

氏 名	支 部	氏 名	支 部	氏 名	支 部
北村和久	三 重	阿部宗一	大 阪	鈴木正彦	群 馬

(3) 平成25年度（平成28年度定時評議員会まで） 評議員 50名

運上琢論(北海道)	新保俊彦(青森)	宮田 勤(岩手)
松田孝志(宮城)	加藤育広(秋田)	山田耕司(山形)
小野間幸一(福島)	額賀富雄(茨城)	大久保忠雄(栃木)
佐藤栄一(群馬)	山下晴海(埼玉)	石川雅利(千葉)
山崎隆一(東京)	笠井一栄(神奈川)	角田俊和(山梨)
藤崎俊郎(新潟)	堀内 昭(長野)	高辻則夫(富山)
眞島仁志(石川)	川畑 茂(福井)	落合敏男(静岡)
篠邊 保(愛知)	天野晴夫(三重)	木村芳雄(岐阜)
金井 豊(滋賀)	増木博一(京都)	相賀 勝(大阪)
森田賢二(兵庫)	川西 斎(奈良)	花田一弥(和歌山)
安東健司(鳥取)	森脇孝吉(島根)	竹内英人(岡山)
大前秀樹(広島)	秋枝正文(山口)	岸本正文(徳島)
木下恵司(香川)	越智 朗(愛媛)	横江忠志(高知)
湯田純孝(福岡)	豊福尚弘(佐賀)	馬場信幸(長崎)
岩下敏和(熊本)	白水厚二(大分)	寺園圀順(宮崎)
川畑 城(鹿児島)	仲間正弘(沖縄)	富永 陽(日学連)
木下道夫(高体連)	平野富靖(中体連)	

## (4) 平成25年度(平成26年度定時評議員会まで) 専門委員会

総務委員会	委員長	和歌浦 信雄(新潟)	副委員長 田中正男(神奈川)		
	委員	柳下 秋久(東京)	吉田 博紀(熊本)	井上 清一(石川)	川島 登(福島)
		丹崎 健一(東京)	山下 晴海(埼玉)	北 正三(埼玉)	
会員登録制度部会	部会長	和歌浦 信雄(新潟)			
	委員	川島 登(福島)	吉田 博紀(熊本)	林 昭文(中体連)	今井 史郎(東京)
		北 正三(埼玉)	大西 正明(高体連)	富 永 陽(日学連)	運上 琢論(北海道)
IT部会	部会長	北 正三(埼玉)			
	委員	天野 晴夫(三重)	大野 勝敏(東京)	増山 良夫(東京)	

審判委員会	委員長	柳下 秋久(東京)	副委員長 今井 史郎(東京)		
	委員	斉藤 元三(愛知)	木原 晴彦(広島)	北村 和久(三重)	笛岡 宣明(愛知)
		林田 正信(熊本)	石川 雅利(千葉)	蒲原 英敏(広島)	田中 敏雄(広島)
		牧 壮一(愛知)	田村 忠士(広島)	君塚 亮一(神奈川)	荒畑 鈴佳(岐阜)
		上山 親子(大阪)	木下 道夫(高体連)		

競技委員会	委員長	斉藤 元三(愛知)	副委員長 星野 博(東京)		
	委員	柳下 秋久(東京)	安藤 正美(香川)	長岡 敏久(埼玉)	今井 史郎(東京)
		井上 光子(千葉)			
プログラム編成部会	部会長	長岡 敏久(埼玉)			
	委員	星野 博(東京)	増山 良夫(東京)	佐藤 健司(東京)	木谷 順三(千葉)
		小笠原 浩二(東京)	中野 吉広(東京)	山口 眞護(東京)	小俣 三男(埼玉)
		木所 一典(栃木)	高川 恵美子(東京)	藤原 芳子(東京)	織原 真由美(東京)
		井上 光子(千葉)	成島 厚子(東京)		
等級制度部会	部会長	今井 史郎(東京)			
	委員	荒木 稜夫(東京)	安達 和紀(鳥取)	篠邊 保(愛知)	吉田 茂(福島)
		大中和 彦(神奈川)			

強化委員会	委員長	神崎 公宏(三重)	副委員長 北本 英幸(石川)		
	委員	野際 照章(京都)	石井 源信(東京)	斉藤 広宣(千葉)	田中 弘(東京)
		中堀 成生(広島)	高川 経生(東京)		
医科学部会	部会長	石井 源信(東京)			
	委員	永井 博典(東京)	山本 裕二(愛知)	水野 哲也(千葉)	工藤 敏巳(宮城)
		出家 正隆(広島)	藤島 淑子(東京)	楠堀 誠司(広島)	井田 博史(東京)
		川上 晃司(兵庫)	守重 昌彦(東京)	見附 祥子(広島)	川野 因(神奈川)
		永野 康治(新潟)	村山 孝之(石川)	福原 和伸(東京)	山田 隆(東京)



指 導 委 員 会	委員長	野 際 照 章(京都)	副委員長 神 崎 公 宏(三重)		
	委 員	北 本 英 幸(石川)	小野寺 剛(東京)	榎 並 紳 吉(東京)	安 達 和 紀(鳥取)
		篠 邊 保(愛知)	井 田 博 史(東京)	小 西 俊 博(香川)	武 田 博 子(広島)
		松 口 康 彦(神奈川)			

生涯スポーツ委員会	委員長	大 川 京 子(千葉)	副委員長 山 本 毅(京都)		
	委 員	吉 田 博 紀(熊本)	本 田 茂 雄 (宮城)	金 岡 昭 房(宮城)	木 下 道 夫(高体連)
		内 田 齋(東京)			
小 学 生 部 会	部会長	金 岡 昭 房(宮城)			
	委 員	石 川 雅 利(千葉)	松 口 康 彦(神奈川)	芝 地 康 幸(兵庫)	廣 島 義 清(北海道)
		國 枝 俊 子(岐阜)	川 並 久 美 子(和歌山)	中 村 正 広(福岡)	小 西 俊 博(香川)
島 山 洋 二(広島)					
シニア部会	部会長	本 田 茂 雄 (宮城)			
	委 員	山 本 毅(京都)	吉 田 博 紀(熊本)	時 任 宥 幸(東京)	保 倉 謙 治(埼玉)
		山 村 嘉 一(千葉)	原 田 公 夫(鳥取)	横 野 久 美 子(愛知)	

国 際 委 員 会	委員長	丹 崎 健 一(東京)	副委員長 玉 木 進(事務局)		
	委 員	木 原 晴 彦(広島)	山 口 正 紀(広島)	福 崎 穰 司(広島)	蒲 原 英 敏(広島)
		古 賀 俊 彦(京都)	松 井 愛 美(神奈川)	関 川 丈 彦(新潟)	

広 報 委 員 会	委員長	田 中 正 男(神奈川)	副委員長 柳 下 秋 久(東京)		
	委 員	安 藤 正 美(香川)	中 山 俊 介(東京)	萩 原 廣 一(神奈川)	石 川 雅 利(千葉)
		北 正 三(埼玉)	大 野 勝 敏(埼玉)	井 上 光 子(千葉)	
機関誌編集部会	部会長	田 中 正 男(神奈川)			
	委 員	石 川 雅 利(千葉)	鈴 木 学(埼玉)	近 藤 貴 予(東京)	井 上 光 子(千葉)

アンチドーピング 委員会	委員長	北 本 英 幸(石川)	副委員長 玉 木 進(事務局)		
	委 員	丹 崎 健 一(東京)	永 井 博 典(東京)	藤 島 淑 子(東京)	川 上 晃 司(兵庫)
		見 附 祥 子(広島)	上 遠 野 久 美(福島)		

《特別委員会》

競技者資格委員会	委員長	表 孟 宏(兵庫)	副委員長 笠 井 達 夫(神奈川)		
	委 員	西 村 信 寛(東京)	小 原 信 幸(岡山)	和歌浦 信雄(新潟)	柳 下 秋 久(東京)
		斉 藤 元 三(愛知)	大 川 京 子(千葉)	田 中 正 男(神奈川)	松 谷 茂(高体連)
		林 昭 文(中体連)			

倫 理 委 員 会	委員長	表 孟 宏(兵庫)	副委員長 笠 井 達 夫(神奈川)		
	委 員	西 村 信 寛(東京)	小 原 信 幸(岡山)	和歌浦 信雄(新潟)	柳 下 秋 久(東京)
		斉 藤 元 三(愛知)	田 中 正 男(神奈川)		

競技者育成プログラム 推進委員会	委員長	笠 井 達 夫(神奈川)	副委員長 神 崎 公 宏(三重)		
	委 員	北 本 英 幸(石川)	吉 田 博 紀(熊本)	木 原 晴 彦(広島)	松 谷 茂(高体連)
		林 昭 文(中体連)	本 田 茂 雄(宮城)	野 際 照 章(京都)	井 上 創(兵庫)
		丹 崎 健 一(東京)	林 研 一(日学連)		
競技者育成部会	部会長	神 崎 公 宏(三重)			
	委 員	斉 藤 広 宣(千葉)	田 中 弘(東京)	小野寺 剛(東京)	小 峯 秋 二(富山)
		池 田 征 弘(京都)	岡 村 勝 幸(山梨)	篠 邊 保(愛知)	安 達 和 紀(鳥取)
指導者育成部会	部会長	野 際 照 章(京都)			
	委 員	神 崎 公 宏(三重)	北 本 英 幸(石川)	斉 藤 広 宣(千葉)	田 中 弘(東京)
		川並久美子(和歌山)	伊 東 健(岩手)		
マネジメント部会	部会長	井 上 創(兵庫)			
	委 員	手 嶋 信 彦(岡山)	天 野 晴 夫(三重)	藤 崎 俊 郎(新潟)	増 田 大 吾(神奈川)
		溝 渕 俊 二(和歌山)	西 木 宏(徳島)	岩 下 敏 和(熊本)	千 葉 英 明(宮城)

用具施設検討委員会	委員長	笠 井 達 夫(神奈川)	副委員長 斉 藤 元 三(愛知)		
	委 員	柳 下 秋 久(東京)	星 野 博(東京)	玉 木 進(事務局)	

国際振興プロジェクト	委員長	笠 井 達 夫(神奈川)	副委員長 丹 崎 健 一(東京)		
	委 員	山 口 正 紀(広島)	橋 本 貞 夫(神奈川)	田 辺 理(東京)	玉 木 進(事務局)
		佐々木 寿(北海道)	古 賀 俊 彦(京都)		

環 境・教 育 プロジェクト	委員長	井 上 清 一(石川)	副委員長 柳 下 秋 久(東京)		
	委 員	斉 藤 元 三(愛知)	神 崎 公 宏(三重)	大 川 京 子(千葉)	川 島 登(福島)
		安 藤 正 美(香川)	松 谷 茂(東京)	林 昭 文(中体連)	野 際 照 章(京都)
		本 田 茂 雄(宮城)	金 岡 昭 房(宮城)	林 研 一(日学連)	

(5) 平成25年度 顧問・参与・事務局職員

《顧問》

中屋 卯三郎	倉田 裕司	松田 謙治	斎藤 孝弘	奥田 忠雄
内田 昌一				

《参与》

重田 衛	長瀬 泰彦	水野 明人	米山 勉	酒井 薫
高松 政男	松田 信穂	林 幸夫	中山 昌作	内藤 享佑
伊野 二彦	和田 祥司	吉田 敏彦	西田 豊明	本田 茂雄
宮下 恭子	藤原 伸二			

《事務局職員》

事務局長	笠井達夫(専務理事)	職 員	荒木 朋子	平成 3年 5月1日～
	平成25年4月1日～		竹田 稔	平成10年 4月1日～
事務局次長	玉 木 進		大八木 洋子	平成13年 4月1日～
			堀内 大	平成26年 1月14日～
			斐 浚 賢	平成26年 1月14日～
	平成24年7月1日～			

- ※ 顧問弁護士 鈴木 孝雄氏
- ※ 公認会計士 櫻井 資悦氏
- ※ 税理士 松尾 洋二氏

5. 会員登録に関する事項

(1) 年度別会員登録人数

(数値：人数)

種別	指導者	一般	小学生	中学生	高校生	高専	大学生	合計
平成 25 年度	9,268	48,324	17,260	286,326	81,402	1,037	7,610	451,227
平成 24 年度	8,751	49,279	17,174	284,478	82,510	1,005	7,800	450,997
平成 23 年度	7,771	50,221	17,298	284,886	81,730	918	8,076	450,900
平成 22 年度	6,885	51,525	18,083	285,617	83,555	950	8,492	455,107
平成 21 年度	5,482	51,214	17,986	291,640	85,841	846	8,499	461,508
平成 20 年度	3,291	51,436	17,408	279,203	87,243	810	8,288	447,679
平成 19 年度	0	54,239	17,415	269,939	91,165	385	7,543	440,686
平成 18 年度	0	53,787	17,742	240,872	93,199	373	7,567	413,540

(注) 都道府県別会員数は別表 4 (P50) に掲載。平成 20 年度より指導者区分を設置。

6. 分担金に関する事項

(1) 支部分担金

一律 150,000 円 × 50 支部 7,500,000 円

(2) 会員登録料

(単位：円)

種別	指導者	一般	小学生	中学生	高校生	高専	大学生	合計
平成 25 年度	9,268,000	48,324,000	8,630,000	143,163,000	40,701,000	518,500	3,805,000	254,409,500
平成 24 年度	8,751,000	49,279,000	8,587,000	142,239,000	41,255,000	502,500	3,900,000	254,513,500

## (3) 維持会費

ア. 公認メーカー

24社：延べ47社（前年度45社）

（単位：円）

用具・用品	金額	公認メーカー
ラケット 9社	900,000	カワサキ・ミズノ・ヨネックス・ゴーセン・ヒロウン ダンロップスポーツ・グローブライド・ティエムシー・ ジャパーナ
ボール 3社	6,440,000	昭和ホールディングス・ナガセケンコー・ダンロップスポーツ
ネット 8社	800,000	鐘屋産業・アシックス・寺西喜商店・ミセキネット・ 昭和ホールディングス・高須賀・ティエヌネット・鶴沢ネット
ストリング 6社	3,960,000	ゴーセン・東亜ストリング・ヨネックス・ダンロップスポーツ・ ミズノ・グローブライド
ユニフォーム 11社	12,760,000	カワサキ・ミズノ・昭和ホールディングス・ヨネックス・ゴー セン・アシックス・ゴールドウィン・ナイキジャパン・ダンロッ プスポーツ・アディダスジャパン・グローブライド
シューズ 10社	4,520,000	アシックス・ヨネックス・ナイキジャパン・アディダスジャパ ン・ダンロップスポーツ・ミズノ・グローブライド・ブリヂス トンスポーツ・ゴールドウィン・ニューバランスジャパン
計	29,380,000	

イ. 施設業者

6社：延べ7社（前年度7社）

（単位：円）

施設・製造	金額	業者名
砂入り人工芝 製造業者 7社	3,500,000	住友ゴム工業・積水樹脂・大塚ターフテック 東和織物・エスディーテック・大嘉産業・泉州敷物
人工クレーコート 製造業者 1社	500,000	大塚ターフテック
計	4,000,000	

ウ. 一般

10団体 90名 計1,240,000円（前年度 12団体 99名 計1,460,000円）

60,000	明宏印刷(株)							
50,000	内田昌一	京都						
30,000	表 孟宏	兵庫	西村信寛	東京	小原信幸	岡山	笠井達夫	神奈川
20,000	本田茂雄	宮城	石川県連盟		山口県連盟		しゅくみねっと(株)	
	(株)トーカイ		共和商事(株)		サンコーマーク(株)			
10,000	倉田裕司	大阪	奥田忠雄	岐阜	高松政男	栃木	松田信穂	千葉
	内藤享佑	東京	長瀬泰彦	東京	藤原伸二	千葉	宮下恭子	大阪
	和歌浦信雄	新潟	柳下秋久	東京	田中正男	神奈川	川島 登	福島
	星野 博	東京	斎藤元三	愛知	山本 毅	京都	木原晴彦	広島
	安藤正美	香川	吉田博紀	熊本	松谷 茂	東京	林 昭文	東京
	丹崎健一	東京	神崎公宏	三重	北本英幸	石川	野際照章	京都
	大川京子	千葉	井上清一	石川	北村和久	三重	阿部宗一	大阪
	鈴木正彦	群馬	高木安一郎	静岡	本川正明	愛知	原田公夫	鳥取

10,000	今井誠則	広島	佐野正和	静岡	今井史郎	東京	笛岡宣明	愛知
	田中美明	埼玉	佐藤栄一	群馬	石川雅利	千葉	山崎隆一	東京
	藤崎俊郎	新潟	堀内 昭	長野	篠邊 保	愛知	落合敏彦	静岡
	天野晴夫	三重	木村芳雄	岐阜	相賀 勝	大阪	大前秀樹	広島
	秋枝正文	山口	白水厚二	大分	木下道夫	東京	大西正明	山形
	林田正信	熊本	荒木稜夫	東京	蒲原英敏	広島	牧 壮一	愛知
	荒畑鈴佳	岐阜	上山親子	大阪	長岡敏久	埼玉	小笠原浩二	東京
	山口眞護	東京	藤島淑子	東京	川上晃司	兵庫	川野 因	神奈川
	井田博史	東京	斉藤広宣	千葉	小西俊博	香川	武田博子	広島
	金岡昭房	宮城	國枝俊子	岐阜	中村正広	福岡	横野久美子	愛知
	保倉謙治	埼玉	山口正紀	広島	佐々木寿	北海道	橋本貞夫	福島
	玉木 進	東京	関川丈彦	新潟	井上 創	兵庫	重平静洋	岡山
	伊東 健	岩手	林 研一	熊本	中山俊介	東京	井上光子	千葉
	佐賀県連盟		(株)はたの工芸社		丸山印刷(株)			

7. 補助金・助成金等に関する事項

(1) 補助金 合計額 6,300,000 円

(公財) 日本オリンピック委員会	選手強化事業 (ナショナルチーム強化合宿)	6,300,000
------------------	-----------------------	-----------

(2) 助成金 合計額 63,324,200 円

(独法) 日本スポーツ振興センター (スポーツ振興基金助成金)	競技会開催 (全日本選手権大会)	1,959,000
	競技会開催 (JOC 杯)	1,005,000
	国内合宿	6,750,000
	指導者研修会	1,082,000
	小計	10,796,000
(独法) 日本スポーツ振興センター (スポーツ振興くじ)	競技者育成プログラム (Step-1~Step-3)	46,482,000
	ドーピング検査	3,801,000
	小計	50,283,000
スポーツ祭東京 2013 実行委員会	国民体育大会役員旅費	720,200
(公財) ヨネックススポーツ財団	全日本若手キャンプ助成金	525,000
(公財) ミズノスポーツ振興財団	ジュニア育成に対する助成金	1,000,000

(3) 交付金 合計額 3,212,450 円

(公財) 日本オリンピック委員会	マーケティングプログラム交付金	2,500,000
	JOC ジュニア選手強化交付金	200,000

(公財) 日本体育協会	日本スポーツマスターズ 運営補助交付金	332,950
	専門科目終了証明書発行手数料	31,500
	スポーツ指導者育成交付金	148,000

(4) 委託金 合計額 1,547,710 円

(公財) 日本体育協会	日本スポーツマスターズ 委託金	1,547,710
-------------	-----------------	-----------

8. 寄付金・協賛金に関する事項

(1) 寄付金 合計額 150,000 円 (前年度 150,000 円)

(単位：円)

ソフトテニスチャリティーゴルフ実行委員会	150,000
----------------------	---------

(2) 協賛金 合計額 26,150,000 円 (前年度 26,150,000 円)

(単位：円)

ミズノ (株) 「日本代表チームユニフォームオフィシャルサプライヤー協賛金」	10,000,000
(株) ゴーセン 「日本代表チームストリングオフィシャルサプライヤー協賛金」	3,300,000
ナガセケンコー (株) 「競技者育成プログラム STEP-4 協賛金」	1,300,000
(株) ショーワコーポレーション 「競技者育成プログラム STEP-4 協賛金」	1,300,000
ミズノ (株) 「全日本インドア選手権大会協賛金」	250,000
ミズノ (株) 「広報活動協賛金」	7,000,000
ミズノ (株) 「国際振興協賛金」	3,000,000

(3) 新規公認 合計額 20,000,000 円 (前年度 0 円)

(単位：円)

泉州敷物(株) 「砂入り人工芝製造業者」	10,000,000
(株)ニューバランスジャパン 「シューズ」	5,000,000
ダンロップスポーツ(株) 「ボール」	5,000,000

9. 傷害補償制度の給付金に関する事項

38 件、1,957,000 円を給付した。(前年度：46 件 1,416,000 円)

(単位：件)

傷害の内容	一般	大学生	高専	高校生	中学生	小学生	計
アキレス腱断裂	7	1					8
骨折	9			1		1	11
靭帯損傷	5			3			8
肉離れ	5						5
その他	4			2			6
計	30	1		6		1	38

# 大会一覧表

別表1

月	日	大会名	種別	会場	参加者数
4	28～29	第6回東アジア競技大会日本代表予選会	男子	広島県広島市	110
			女子	広島広域公園テニスコート	92
5	18～19	第20回全日本シングルス選手権大会	男子シングルス	熊本県熊本市	180
			女子シングルス	パークドーム熊本	158
6	19～23	第42回ハイスクールジャパンカップ	男子ダブルス	北海道札幌市 円山庭球場	120
			女子ダブルス		120
			男子シングルス		48
			女子シングルス		48
	29～30	西日本シニア選手権大会	シニア男45	三重県 県営鈴鹿スポーツガーデン 四日市市三滝公園テニスコート 四日市ドーム	96
			シニア女45		66
			シニア男50		32
			シニア女50		72
			シニア男55		124
			シニア女55		98
			シニア男60		132
			シニア女60		108
			シニア男65		94
			シニア女65		92
			シニア男70		54
			シニア女70		46
			シニア男75		34
			シニア女75		16
シニア男80	14				
シニア女80	10				
7	13～14	第68回東日本選手権大会	一般男子	福井県福井市 わかばテニスコート 西公園テニスコート きららパークテニスコート 健康の森テニスコート トリムパークかなづテニスコート 加賀市運動公園テニスコート 武生中央公園テニスコート	406
			一般女子		236
			成年男子		100
			成年女子		34
			シニア男45		38
			シニア女45		42
			シニア男50		60
			シニア女50		52
			シニア男55		94
			シニア女55		80
			シニア男60		100
			シニア女60		88
			シニア男65		96
			シニア女65		96
	シニア男70	62			
	シニア女70	44			
	シニア男75	32			
	シニア女75	22			
20～21	第67回西日本選手権大会	一般男子	岐阜県	482	
		一般女子	瑞浪市テニスコート	234	
		成年男子	土岐市総合公園テニスコート	120	
		成年女子	中津川公園テニスコート	32	



7	26～28	男子第58回 女子第57回 全日本実業団選手権大会	男子団体	長崎県佐世保市 総合グラウンド庭球場 吉井テニスコート	804
			女子団体		96
	28～31	全日本高校選手権大会	女子個人	大分県大分市	314
			女子団体		288
8	1～4		男子個人	大分スポーツ公園だいぎんテニスコート	314
			男子団体		288
	1～4	第30回全日本小学生選手権大会	男子個人	山梨県 甲府市小瀬スポーツ公園テニス場 笛吹市石和中央テニス	384
			男子団体		288
			女子個人		384
			女子団体		288
	2～4	第40回全日本レディース(個人戦)	ふじ(初心者)	徳島県徳島市	136
			すみれ(満20歳以上)	大神子テニスセンター	64
			ばら(40歳以上)	JAバンクテニスプラザ	144
			ゆり(50歳以上)	徳島市民庭球場	140
			きく(55歳以上)	徳島大学テニスコート	332
			あやめ(60歳以上)	鳴門・大塚スポーツパーク	330
			はぎ(65歳以上)	アミノバリューホール	274
			さつき(70歳以上)	美馬市都市公園	226
さくら(75歳以上)			南部健康運動公園テニスコート	82	
もも(80歳以上)			阿南市スポーツ総合センター	34	
2～8	全日本学生選手権大会 第66回文部科学大臣杯(大学対抗) 第67回三笠宮賜杯(ダブルス) 第54回全日本学生シングルス選手権大会	男子大学対抗	山形県	228	
		女子大学対抗	山形市総合スポーツセンターテニスコート	342	
		男子ダブルス	山形県総合運動都市公園テニスコート	922	
		女子ダブルス	天童市スポーツセンターテニスコート	582	
		男子シングルス	東根市民体育館大森パークテニスコート	108	
		女子シングルス		85	
19～21	第44回全国中学校大会	男子個人	愛知県一宮市 一宮市テニス場	128	
		女子個人		128	
		男子団体		150	
		女子団体		150	
24～26	第35回全日本レディース決勝大会 (都道府県対抗団体戦)	都道府県対抗	千葉県白子町	480	
9	7～8	第41回全日本社会人選手権大会	一般男子	北海道札幌市 野幌総合運動公園テニスコート 円山庭球場	426
			一般女子		206
			成年男子		164
			成年女子		42
	14～15	第20回JOC杯・全日本ジュニア選手権大会	男子(U-14)	広島県広島市 広島市中央庭球場	12
			女子(U-14)		13
			男子(U-17)		36
			女子(U-17)		25
			男子(U-20)		29
			女子(U-20)		28
	14～16	日本スポーツマスターズ2013	都道府県対抗	福岡県北九州市 三萩野庭球場・文化記念庭球場	500

9	20~22	第17回全日本シニア選手権大会	男子45	兵庫県神戸市 神戸総合運動公園テニスコート他	172
			女子45		116
			男子50		204
			女子50		146
			男子55		244
			女子55		200
			男子60		248
			女子60		206
			男子65		212
			女子65		186
			男子70		106
			女子70		102
			男子75		62
			女子75		40
			男子80		22
			混合45		62
			混合50		78
			混合55		152
			混合60		158
混合65	104				
10	4~7	第68回国民体育大会	少年男子	東京都世田谷区	282
			少年女子	総合運動場庭球場	96
			成年男子	世田谷区立大蔵第二運動場庭球場	96
			成年女子	駒沢オリンピック公園テニスコート	96
	25~27	第68回天皇賜杯皇后賜杯 全日本選手権大会	男子	茨城県神栖市	364
女子	海浜運動公園庭球場	340			
11	2~3	第27回日本実業団リーグ	男子団体	京都府福知山市	171
			女子団体	三段池公園テニスコート・福知山市民運動場	57
	2~3	第20回全日本クラブ選手権大会	男子団体	千葉県白子町	1,044
			女子団体	白子町サニーテニスコート他	222
	15~18	第8回ジュニアジャパンカップ	男子シングルス(U-14)	宮崎県宮崎市 生目の杜運動公園テニスコート	39
			女子シングルス(U-14)		38
			男子シングルス(U-17)		38
			女子シングルス(U-17)		37
			男子シングルス(U-20)		34
			女子シングルス(U-20)		39
			男子ダブルス(U-14)		40
			女子ダブルス(U-14)		38
			男子ダブルス(U-17)		38
			女子ダブルス(U-17)		38
			男子ダブルス(U-20)		34
女子ダブルス(U-20)	40				
21~24	第31回日本リーグ	男子	広島県広島市	63	
		女子	広島県立総合体育館	58	
2	2	第59回全日本インドア選手権大会	男子	大阪府大阪市	24
			女子	大阪市中央体育館	24
	9~10	日本リーグ入替戦	男子	愛知県名古屋市中区	37
			女子	露橋スポーツセンター	35

3	26～28	第25回都道府県対抗全日本中学生大会	男子団体	三重県伊勢市 三重県営サンアリーナ 三重県営総合競技場体育館 伊勢市営庭球場	288
			女子団体		288
			男子ダブルス		288
			女子ダブルス		288
			男子シングルス		296
			女子シングルス		296
	29～30	第38回全日本高等学校選抜大会	男子団体	愛知県名古屋	192
			女子団体	日本ガイシスポーツプラザ	192
	30～31	第12回全国小学生大会	男子6年生の部	千葉県白子町 白子町サニーテニスコート他	89
			女子6年生の部		90
			男子5年生の部		280
			女子5年生の部		360
男子4年生以下の部			340		
女子4年生以下の部			350		

## 技術等級認定実績

別表2

平成26年3月31日現在

支部名	名誉指導員	Ma	Ex	S-Ex	Sp	S-Sp	1級	2級	3級	4級	合計
1 北海道	0	0	7	0	10	1	14	38	29	0	99
2 青森県	0	0	0	0	10	0	0	0	45	19	74
3 岩手県	1	0	0	0	3	0	1	9	21	2	37
4 宮城県	0	0	0	0	8	0	5	1	25	0	39
5 秋田県	0	0	0	0	6	1	18	8	23	0	56
6 山形県	0	0	0	0	4	1	3	5	44	0	57
7 福島県	0	0	1	0	9	0	5	23	72	0	110
8 茨城県	0	0	0	2	13	0	11	9	54	27	116
9 栃木県	0	0	2	0	9	0	4	99	59	97	270
10 群馬県	0	0	0	0	13	2	5	19	23	14	76
11 埼玉県	0	0	0	0	11	5	19	72	67	34	208
12 千葉県	0	0	0	0	6	0	3	11	21	34	75
13 東京都	0	0	5	0	8	1	19	37	14	12	96
14 神奈川県	0	0	0	0	11	0	0	39	24	0	74
15 山梨県	0	0	0	0	5	0	4	39	16	19	83
16 新潟県	0	0	2	0	8	0	5	12	21	0	48
17 長野県	0	0	0	2	5	2	6	7	34	2,259	2,315
18 富山県	0	0	6	0	2	0	0	16	5	20	49
19 石川県	0	0	0	0	4	1	8	11	40	13	77
20 福井県	0	0	0	0	5	0	10	21	12	57	105
21 静岡県	0	0	0	0	7	0	4	14	39	1	65
22 愛知県	0	0	5	4	3	1	7	58	63	110	251
23 三重県	0	0	3	0	9	0	3	7	31	20	73
24 岐阜県	0	0	2	2	15	0	8	22	36	44	129
25 滋賀県	0	0	0	2	5	0	0	2	25	0	34
26 京都府	0	0	3	0	5	0	2	34	27	10	81
27 大阪府	0	0	2	1	4	6	10	72	37	12	144
28 兵庫県	0	0	3	5	4	0	10	42	11	15	90
29 奈良県	0	0	4	2	5	0	6	0	25	0	42
30 和歌山県	0	0	0	1	7	0	6	4	25	50	93
31 鳥取県	0	0	0	0	6	0	0	6	4	21	37
32 島根県	0	0	0	0	5	1	1	1	3	20	31
33 岡山県	0	0	4	0	12	0	15	61	26	0	118
34 広島県	0	0	6	0	9	2	7	20	21	0	65
35 山口県	0	0	1	0	2	0	22	44	26	0	95
36 徳島県	0	0	1	0	4	0	2	27	15	0	49
37 香川県	0	0	3	0	4	0	0	7	12	10	36
38 愛媛県	0	0	0	0	2	0	3	14	24	19	62
39 高知県	0	0	0	0	4	0	0	2	9	24	39
40 福岡県	0	0	3	0	10	0	5	5	30	1	54
41 佐賀県	0	0	0	1	1	0	0	0	27	0	29
42 長崎県	0	0	1	0	0	0	11	3	23	20	58
43 熊本県	0	0	1	0	7	0	12	83	277	357	737
44 大分県	0	0	0	0	1	0	0	0	23	13	37
45 宮崎県	0	0	0	0	0	0	2	71	39	0	112
46 鹿児島県	0	0	0	0	1	2	3	0	23	0	29
47 沖縄県	0	0	0	0	1	0	0	18	35	0	54
48 日本学連	0	0	26	0	61	0	71	50	0	0	208
合計	1	0	91	22	344	26	350	1,143	1,585	3,354	6,916
前年度	1	0	88	21	320	12	374	1,109	1,560	3,042	6,527

公認審判員認定実績

別表3

平成26年3月31日現在

No	支部	認定者数									合計
		マスター レフェリー	マスター アンパイヤー	1級審判員		2級審判員				ジュニア	
				新規	更新	一般		高校			
						新規	更新	新規	移行		
1	北海道	2	1	3	2	158	226	301	537	2,256	3,486
2	青森県	0	1	0	1	22	18	176	34	311	563
3	岩手県	0	0	0	9	92	137	90	437	1,285	2,050
4	宮城県	0	0	1	5	71	93	747	147	717	1,781
5	秋田県	1	0	1	7	38	49	91	266	861	1,314
6	山形県	2	0	2	1	39	49	248	258	676	1,275
7	福島県	0	0	3	4	77	72	126	485	2,561	3,328
8	茨城県	1	0	2	6	75	110	694	52	217	1,157
9	栃木県	1	0	0	2	102	71	435	39	118	768
10	群馬県	1	2	0	1	39	69	317	122	217	768
11	埼玉県	3	0	5	8	256	453	1,292	259	1,753	4,029
12	千葉県	3	0	2	2	156	211	654	414	3,665	5,107
13	東京都	2	15	3	2	272	207	140	23	14	678
14	神奈川県	1	0	2	1	115	64	201	412	7,646	8,442
15	山梨県	2	2	0	2	74	90	380	120	85	755
16	新潟県	2	10	2	6	53	72	109	312	2,365	2,931
17	長野県	0	0	1	1	78	175	541	38	95	929
18	富山県	3	0	0	1	33	54	360	0	22	473
19	石川県	0	0	2	2	23	66	57	238	503	891
20	福井県	0	0	1	0	27	21	80	26	64	219
21	静岡県	2	8	2	5	117	113	172	386	3,926	4,731
22	愛知県	2	0	3	4	220	312	824	17	174	1,556
23	三重県	0	0	0	1	48	67	62	20	94	292
24	岐阜県	0	1	1	3	49	62	256	48	202	622
25	滋賀県	0	0	1	1	60	56	545	38	54	755
26	京都府	2	0	0	2	69	57	561	18	122	831
27	大阪府	1	0	1	1	122	249	195	25	86	680
28	兵庫県	0	0	0	3	274	58	38	0	34	407
29	奈良県	1	0	0	10	83	128	303	14	25	564
30	和歌山県	0	0	0	0	39	96	31	0	43	209
31	鳥取県	1	0	0	5	56	44	33	18	35	192
32	島根県	0	0	2	3	8	86	262	7	48	416
33	岡山県	3	1	1	12	42	51	32	59	118	319
34	広島県	1	0	0	5	79	132	796	54	86	1,153
35	山口県	2	1	0	5	77	88	395	33	179	780
36	徳島県	0	0	0	0	36	48	147	0	54	285
37	香川県	0	0	0	5	36	41	230	41	133	486
38	愛媛県	0	0	3	1	39	77	43	12	201	376
39	高知県	0	0	0	7	35	40	66	5	34	187
40	福岡県	0	0	0	1	95	119	330	93	453	1,091
41	佐賀県	1	1	2	1	38	17	181	62	1,328	1,631
42	長崎県	0	1	9	3	116	14	99	199	1,342	1,783
43	熊本県	0	0	0	5	48	42	242	27	1,510	1,874
44	大分県	0	0	1	4	34	52	96	10	160	357
45	宮崎県	0	0	0	2	15	67	11	12	224	331
46	鹿児島県	0	1	4	0	110	108	92	37	146	498
47	沖縄県	1	0	0	0	55	60	74	19	303	512
48	日本学連	0	0	3	0	553	436	0	0	0	992
合計		41	45	63	152	4,353	5,027	13,155	5,473	36,545	64,854
前年度		71	46	24	208	4,703	4,804	13,650	6,015	36,746	66,267

会員登録集計表(平成25年度)

別表4

平成26年3月31日現在

支部名	指導者	一般		小学生		中学生		高校生		高専		大学生		合計	
	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数
北海道	237	172	2,263	36	569	273	8,224	147	3,254	3	98	0	10	631	14,655
青森	212	52	508	11	170	101	3,821	43	875	1	8	1	13	209	5,607
岩手	332	60	1,106	30	420	137	4,461	68	1,861	1	25	0	19	296	8,224
宮城	94	68	778	17	428	164	4,258	80	2,495	2	26	1	11	332	8,090
秋田	194	36	594	13	286	76	2,598	44	1,067	1	8	0	2	170	4,749
山形	92	36	535	18	413	70	2,976	44	1,349	1	5	0	1	169	5,371
福島	360	73	682	26	579	159	6,917	74	1,637	1	37	0	0	333	10,212
茨城	408	73	804	16	576	198	9,203	81	2,103	1	4	0	2	369	13,100
栃木	49	39	861	15	411	127	5,889	50	1,192	0	17	0	20	231	8,439
群馬	123	48	1,013	20	659	156	7,228	51	1,301	1	9	1	17	277	10,350
埼玉	220	214	4,018	32	1,098	374	19,711	131	4,380	0	4	0	169	751	29,600
千葉	602	117	1,935	19	480	338	17,875	116	2,990	1	6	0	17	591	23,905
東京	199	135	2,967	26	463	276	9,012	181	4,285	1	15	0	99	619	17,040
神奈川	539	99	1,102	13	337	357	20,494	132	2,897	0	0	0	2	601	25,371
山梨	20	48	577	15	317	17	337	33	991	0	0	0	13	113	2,255
新潟	199	59	923	22	453	157	5,033	62	1,270	1	16	0	0	301	7,894
長野	144	34	1,438	19	428	124	4,362	71	1,581	1	22	0	14	249	7,989
富山	77	23	377	14	324	59	2,458	28	915	0	0	0	0	124	4,151
石川	29	53	723	21	387	72	3,713	37	960	2	22	1	1	186	5,835
福井	49	36	482	5	145	43	1,531	16	574	1	12	0	2	101	2,795
静岡	577	129	1,576	25	823	316	14,049	79	1,524	1	23	3	23	553	18,595
愛知	259	174	3,092	20	678	354	20,225	145	5,692	0	22	0	46	693	30,014
三重	74	49	712	15	359	153	6,727	49	1,272	1	11	0	14	267	9,169
岐阜	40	62	901	31	614	255	7,368	51	1,815	0	19	0	35	399	10,792
滋賀	82	29	519	12	381	71	1,003	40	1,513	0	0	0	4	152	3,502
京都	95	84	902	18	404	119	4,135	53	1,467	0	0	0	0	274	7,003
大阪	268	94	1,785	16	264	270	9,278	198	3,282	0	0	0	7	578	14,884
兵庫	171	83	1,526	16	253	309	16,721	150	4,747	2	43	0	4	560	23,465
奈良	109	35	946	8	131	65	2,717	28	863	0	0	0	9	136	4,775
和歌山	84	59	782	17	274	102	3,536	29	812	1	22	0	0	208	5,510
鳥取	87	32	418	11	171	37	1,111	24	563	1	23	1	13	106	2,386
島根	88	44	379	11	207	56	1,846	41	859	1	0	0	12	153	3,391
岡山	160	66	701	12	192	134	5,549	68	2,040	1	43	0	1	281	8,686
広島	196	115	1,365	15	302	142	4,984	97	2,567	2	67	0	99	371	9,580
山口	163	65	1,075	8	249	103	4,540	52	1,591	3	82	0	30	231	7,730
徳島	147	24	304	7	126	98	2,291	23	487	1	31	0	0	153	3,386
香川	87	29	381	9	213	51	2,352	30	719	2	10	0	1	121	3,763
愛媛	150	33	579	12	235	133	4,346	65	1,234	1	48	0	0	244	6,592
高知	54	27	342	11	141	37	1,100	24	431	1	6	0	14	100	2,088
福岡	486	76	1,104	20	322	193	7,469	142	2,649	4	66	0	65	435	12,161
佐賀	207	22	407	14	276	73	3,120	39	866	0	0	0	0	148	4,876
長崎	412	51	883	16	309	152	4,943	104	1,898	1	37	1	88	325	8,570
熊本	426	64	873	17	346	147	5,085	61	1,419	2	43	1	8	292	8,200
大分	164	52	580	8	142	98	2,351	28	677	0	23	0	21	186	3,958
宮崎	250	60	602	22	397	152	3,346	37	879	1	22	0	1	272	5,497
鹿児島	151	110	1,237	37	355	187	4,716	77	1,125	2	47	1	5	414	7,636
沖縄	101	41	665	13	153	48	1,317	33	433	0	2	0	22	135	2,693
日本学連	1	0	2	0	0	0	0	0	1	0	13	446	6,676	446	6,693
合計	9,268	3,184	48,324	809	17,260	7,133	286,326	3,256	81,402	47	1,037	457	7,610	14,886	451,227
昨年度	8,751	3,230	49,279	797	17,174	7,251	284,478	3,281	82,510	46	1,005	472	7,800	15,077	450,997

平成25年度

# 決算報告書

(平成25年4月 1日～平成26年3月31日)

財務諸表等

(1) 貸借対照表

平成26年3月31日現在

単位：円

科 目	当年度	前年度	増減
<b>I 資産の部</b>			
<b>1. 流動資産</b>			
現金預金	72,103,902	6,600,816	65,503,086
未収金	38,439,907	52,556,430	△ 14,116,523
貯蔵品	8,874,587	7,837,391	1,037,196
<b>流動資産合計</b>	119,418,396	66,994,637	52,423,759
<b>2. 固定資産</b>			
(1)基本財産	150,000,000	150,000,000	0
定期預金	41,471,900	41,471,900	0
有価証券	108,528,100	108,528,100	0
<b>基本財産合計</b>	150,000,000	150,000,000	0
(2)特定資産	96,579,739	70,037,264	26,542,475
退職給付引当資産	18,079,739	21,537,264	△ 3,457,525
資産取得資金積立金	20,000,000	0	20,000,000
国際大会積立金	58,500,000	48,500,000	10,000,000
<b>特定資産合計</b>	96,579,739	70,037,264	26,542,475
(3)その他固定資産	148,008,535	149,658,751	△ 1,650,216
建物及び付属設備	86,155,209	87,746,583	△ 1,591,374
器具備品	269,998	328,840	△ 58,842
土地	61,583,328	61,583,328	0
<b>その他固定資産</b>	148,008,535	149,658,751	△ 1,650,216
<b>固定資産合計</b>	394,588,274	369,696,015	24,892,259
<b>資産合計</b>	514,006,670	436,690,652	77,316,018
<b>II 負債の部</b>			
<b>1. 流動負債</b>	32,024,950	5,402,171	26,622,779
未払金	29,594,515	3,915,167	25,679,348
預り金	269,682	302,276	△ 32,594
前受金	810,000	0	810,000
賞与引当金	1,350,753	1,184,728	166,025
<b>流動負債合計</b>	32,024,950	5,402,171	26,622,779
<b>2. 固定負債</b>	19,626,075	23,218,700	△ 3,592,625
退職給付引当金	19,626,075	23,218,700	△ 3,592,625
<b>固定負債合計</b>	19,626,075	23,218,700	△ 3,592,625
<b>負債合計</b>	51,651,025	28,620,871	23,030,154
<b>III 正味財産の部</b>			
<b>1. 指定正味財産</b>	0	0	0
指定正味財産 (うち特定資産への充当額)	0	0	0
<b>2. 一般正味財産</b>	462,355,645	408,069,781	54,285,864
(うち基本財産への充当額)	(150,000,000)	(150,000,000)	0
(うち特定資産への充当額)	(78,500,000)	(48,500,000)	(30,000,000)
<b>正味財産合計</b>	462,355,645	408,069,781	54,285,864
<b>負債及び正味財産合計</b>	514,006,670	436,690,652	77,316,018



## (2) 正味財産増減計算書

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

単位:円

科 目	当年度	前年度	増減
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
<b>1. 経常増減の部</b>			
<b>(1) 経常収益</b>			
基本財産運用収入	1,126,583	1,058,903	67,680
会費収入	296,529,500	295,233,500	1,296,000
事業収入	157,308,697	159,591,592	△ 2,282,895
補助金等収入	74,384,360	87,192,960	△ 12,808,600
協賛金寄付金収入	46,300,000	26,300,000	20,000,000
雑収入	4,514,610	3,667,698	846,912
他会計からの繰入金収入	0	0	0
<b>経常収益計</b>	580,163,750	573,044,653	7,119,097
<b>(2) 経常費用</b>			
事業費	219,820,068	208,584,196	11,235,872
管理費	112,148,097	124,569,932	△ 12,421,835
加盟費	1,101,297	865,945	235,352
競技力向上費	159,490,427	157,716,861	1,773,566
指導者育成事業費	10,077,953	5,736,688	4,341,265
大会開催等関係費	18,262,738	18,175,116	87,622
スポーツマスターズ参加支援費	3,327,090	3,831,290	△ 504,200
減価償却費	1,650,216	757,292	892,924
他会計への繰入額	0	0	0
<b>経常費用計</b>	525,877,886	520,237,320	5,640,566
<b>当期経常増減額</b>	54,285,864	52,807,333	1,478,531
<b>2. 経常外増減の部</b>	0	0	0
<b>(1) 経常外収益</b>	0	0	0
<b>経常外収益計</b>	0	0	0
<b>(2) 経常外費用</b>	0	0	0
<b>経常外費用計</b>	0	0	0
<b>当期経常外増減額</b>	0	0	0
<b>税引前当期一般正味財産増減額</b>	54,285,864	52,807,333	1,478,531
<b>法人税、住民税及び事業税</b>	0	0	0
<b>法人税等調整額</b>	0	0	0
<b>当期一般正味財産増減額</b>	54,285,864	52,807,333	1,478,531
<b>一般正味財産期首残高</b>	408,069,781	355,262,448	52,807,333
<b>一般正味財産期末残高</b>	462,355,645	408,069,781	54,285,864
<b>II 指定正味財産増減の部</b>	0	0	0
<b>当期指定正味財産増減額</b>	0	0	0
<b>指定正味財産期首残高</b>	0	0	0
<b>指定正味財産期末残高</b>	0	0	0
<b>III 正味財産期末残高</b>	462,355,645	408,069,781	54,285,864

**(3)正味財産増減計算書内訳表**  
平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

(単位:円)

区 分	公益目的事業会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1). 経常収益			
基本財産運用収入	1,126,583	0	1,126,583
会費収入	187,802,435	108,727,065	296,529,500
事業収入	157,308,697	0	157,308,697
補助金収入	74,384,360	0	74,384,360
協賛金寄付金収入	46,300,000	0	46,300,000
雑収入	4,514,610	0	4,514,610
経常収益計	471,436,685	108,727,065	580,163,750
(2). 経常費用			
事業費	471,436,685	0	471,436,685
役員報酬	4,437,500	0	4,437,500
給料	7,300,025	0	7,300,025
職員手当等	2,878,433	0	2,878,433
退職給付費用	841,580	0	841,580
福利厚生費	3,766,081	0	3,766,081
賞与引当金繰入	823,959	0	823,959
旅費交通費	79,841,393	0	79,841,393
通信運搬費	7,252,158	0	7,252,158
支払手数料	6,358,392	0	6,358,392
減価償却費	1,023,801	0	1,023,801
会議費	30,873,289	0	30,873,289
備品購入費	884,213	0	884,213
消耗品費	19,478,436	0	19,478,436
修繕費	0	0	0
印刷製本費	11,624,994	0	11,624,994
光熱水費	509,343	0	509,343
賃借料	7,822,130	0	7,822,130
保険料	706,691	0	706,691
諸謝金	14,008,000	0	14,008,000
報償費	6,451,601	0	6,451,601
租税公課	3,080,195	0	3,080,195
支払負担金	33,347,190	0	33,347,190
支払助成金	132,515,420	0	132,515,420
支払寄付金	100,000	0	100,000
委託費	90,831,764	0	90,831,764
渉外交際費	50,000	0	50,000
雑費	4,630,098	0	4,630,098

区 分	公益目的事業会計	法人会計	合計
管理費	0	54,441,201	54,441,201
役員報酬	0	1,562,500	1,562,500
給料	0	10,262,524	10,262,524
職員手当等	0	3,110,266	3,110,266
退職給付費用	0	538,060	538,060
福利厚生費	0	2,407,823	2,407,823
賞与引当金繰入	0	526,794	526,794
旅費交通費	0	12,749,816	12,749,816
通信運搬費	0	1,934,081	1,934,081
支払手数料	0	370,407	370,407
減価償却費	0	626,415	626,415
会議費	0	2,055,828	2,055,828
備品購入費	0	565,316	565,316
消耗品費	0	2,033,290	2,033,290
修繕費	0	0	0
印刷製本費	0	1,434,811	1,434,811
光熱水費	0	325,645	325,645
賃借料	0	2,191,166	2,191,166
保険料	0	67,850	67,850
諸謝金	0	267,000	267,000
報償費	0	0	0
租税公課	0	1,969,305	1,969,305
支払負担金	0	0	0
支払助成金	0	0	0
支払寄付金	0	0	0
委託費	0	7,983,330	7,983,330
渉外交際費	0	462,362	462,362
雑費	0	996,610	996,610
経常費用計	471,436,685	54,441,201	525,877,886
当期経常増減額	0	54,285,864	54,285,864
2. 経常外増減の部	0	0	0
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	0	54,285,864	54,285,864
一般正味財産期首残高	206,052,220	202,017,561	408,069,781
一般正味財産期末残高	206,052,220	256,303,425	462,355,645
II 指定正味財産増減の部	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
当期指定正味財産期首残高	0	0	0
当期指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	206,052,220	256,303,425	462,355,645

## (4) 財務諸表の注記

### 1. 重要な会計方針

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

- ① 満期保有目的の債券……償却原価法(定額法)によっている。  
但し、取得価額と債券金額との差額について重要性が乏しい場合は、償却原価法を適用していない。
- ② その他の有価証券……期末日の市場価額等に基づく時価法(売却原価は移動平均法により算定)によっている。

#### (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

- ① 貯蔵品……個別法による原価法によっている。

#### (3) 有形固定資産の減価償却の方法

- 什器備品……法人税法で規定する定率法によっている。  
建物及び附属設備……法人税法で規定する定額法によっている。

#### (4) 引当金の計上基準

- ① 退職給付引当金……職員の退職給付に備えるため、退職給与の当期末要支給額に相当する金額を計上している。
- ② 賞与引当金……職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。

#### (5) 消費税等の会計処理

- 税込方式によっている。

### 2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産・特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	41,471,900	0	0	41,471,900
有価証券	108,528,100	0	0	108,528,100
小計	150,000,000	0	0	150,000,000
特定資産				
退職給付引当資産				
定期預金	11,537,264	1,514,740	4,972,265	8,079,739
有価証券	10,000,000	0	0	10,000,000
資産取得資金積立金	0	20,000,000	0	20,000,000
国際大会積立金	48,500,000	10,000,000	0	58,500,000
小計	70,037,264	31,514,740	4,972,265	96,579,739
合計	220,037,264	31,514,740	4,972,265	246,579,739

### 3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの 充当額)	(うち一般正味財産からの 充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	41,471,900		(41,471,900)	
有価証券	108,528,100		(108,528,100)	
小計	150,000,000		(150,000,000)	
特定資産				
退職給付引当資産	18,079,739			(18,079,739)
資産取得資金積立金	20,000,000		(20,000,000)	
国際大会積立金	58,500,000		(58,500,000)	
小計	96,579,739		(78,500,000)	(18,079,739)
合計	246,579,739		(228,500,000)	(18,079,739)

4. 担保に供している資産  
該当事項なし

5. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高(直接法により減価償却を行なっている)  
(単位:円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物及び附属設備	88,409,655	2,254,446	86,155,209
什器備品	798,215	528,217	269,998
合計	89,207,870	2,782,663	86,425,207

6. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高  
(単位:円)

科目	債権金額	貸倒引当金の当期末残高	債権の当期末残高
未収入金	38,439,907	0	38,439,907
合計	38,439,907	0	38,439,907

7. 保証債務等の偶発債務  
該当事項なし

8. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益  
満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。  
(単位:円)

科目	帳簿価額	時価	評価損益
第120回利付国債(20年)	39,754,000	42,576,520	2,822,520
第62回利付国債(20年)	29,774,100	30,617,580	843,480
東京都再生債	39,000,000	38,996,100	△ 3,900
第11回三菱信託銀行社債(10年)	10,000,000	10,509,670	509,670
合計	118,528,100	122,699,870	4,171,770

9. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高  
補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
日本スポーツマスターズ委託金交付金	(公財)日本体育協会	0	1,880,660	1,880,660	0	-
スポーツ指導者育成交付金	同上	0	148,000	148,000	0	-
専門科目終了証明書発行手数料	同上	0	31,500	31,500	0	-
スポーツ振興基金助成金	(独法)日本スポーツ振興センター	0	10,796,000	10,796,000	0	-
スポーツ振興くじ助成金	同上	0	50,283,000	50,283,000	0	-
25年度選手強化委託金	(公財)日本オリンピック委員会	0	6,300,000	6,300,000	0	-
25年度JOCジュニア強化交付金	同上	0	200,000	200,000	0	-
マーケティングプログラム交付金	同上	0	2,500,000	2,500,000	0	-
国民体育大会役員旅費	スポーツ祭東京2013実行委員会	0	720,200	720,200	0	-
全日本若手キャンプ助成金	(公財)ヨネックススポーツ振興財団	0	525,000	525,000	0	-
ジュニア育成に対する助成金	(公財)ミズノスポーツ振興財団	0	1,000,000	1,000,000	0	-
合計		0	74,384,360	74,384,360	0	-

10. 重要な後発事象  
該当事項なし

## (5) 附属明細書

### 1. 基本財産および特定資産

基本財産および特定資産の明細については、財務諸表の注記において記載している。

### 2. 引当金の明細

引当金の当期の増減額および残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	1,184,728	1,350,753	1,184,728	0	1,350,753
退職給付引当金	23,218,700	1,484,575	5,077,200	0	19,626,075

## (6) 財産目録

(平成26年3月31日現在)

単位:円

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額		
(流動資産)	現金	現金手許有高	運転資金として 184,533		
	定期預金	三菱東京UFJ銀行大井町支店	同上 60,000,000		
	普通預金	三菱東京UFJ銀行渋谷中央支店、大井町支店	同上 11,004,243		
		横浜銀行渋谷支店他	同上 595,186		
	郵便振替	ゆうちょ銀行	同上 319,940		
			(現金預金計) <b>72,103,902</b>		
	未収金	スポーツ振興センター他	公益目的事業・受取補助金他 29,716,500		
		株式会社デジタルガレージ他	未収分として 公益目的事業・審判、技術等級 8,723,407		
			(未収金計) <b>38,439,907</b>		
	貯蔵品	明宏印刷株式会社他	公益目的事業・審判、技術等級 8,874,587		
		(貯蔵品計) <b>8,874,587</b>			
流動資産合計			<b>119,418,396</b>		
(固定資産)	基本財産	定期預金	京都中央信用金庫 青梅信用金庫 枚方信用金庫 横浜銀行渋谷支店 三菱東京UFJ銀行渋谷中央支店	公益目的保有財産であり運用益 を公益目的事業の財源に充当 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 1,471,900	
		有価証券	第120回利付国債(20年) 第62回利付国債(10年) 東京都再生債	公益目的保有財産であり運用益 を公益目的事業の財源に充当 39,754,000 29,774,100 39,000,000	
				(基本財産計) <b>150,000,000</b>	
		特定資産	退職給付引当資産	第11回三菱信託銀行社債(10年)	職員の退職金支出のため保有。 10,000,000
			資産取得資金積立金	定期預金・三菱東京UFJ銀行 渋谷中央支店	公益目的事業と運営管理業務 の財源に使用 8,079,739
		国際大会積立金	定期預金・三菱東京UFJ銀行 横浜銀行渋谷支店	資産取得用積立であり、運用益を公益 目的事業の財源に充当 20,000,000	
				(特定資産計) <b>96,579,739</b>	
	その他固定資産	建物及び付属設備	ブリリア大井町ラヴィアンタワー 鉄筋コンクリート造2階 東京都品川区大井1-16-2-201 149.79平米	公益目的事業と運営管理目的 に使用する財産 86,155,209	
		器具備品	ブリリア大井町ラヴィアンタワー内ラック	公益目的事業と運営管理目的 に使用する財産 225,974	
		土地	スピードラップ・超音波治療器 ブリリア大井町ラヴィアンタワー用地 東京都品川区大井1-16-2-201 共有持分 24.86平米	全て公益目的事業のため使用 公益目的事業と運営管理目的 に使用する財産 44,024 61,583,328	
			(その他固定資産計) <b>148,008,535</b>		
固定資産合計			<b>394,588,274</b>		
資産合計			<b>514,006,670</b>		
(流動負債)	未払金	品川税務署他	公益目的事業と運営管理業務 に関する消費税等の未払分として 2,315,200		
		ベースボールマガジン社他	公益目的事業・広報事業分の未払分 として 27,279,315		
			(未払金計) <b>29,594,515</b>		
	前受金	ダンロップスポーツ(株)	公益目的事業・次年度広告料前受金分として <b>810,000</b>		
	預り金	品川税務署	源泉徴収税預り分として <b>269,682</b>		
賞与引当金	職員分	公益目的事業と運営管理業務 に従事する職員の賞与として <b>1,350,753</b>			
流動負債合計			<b>32,024,950</b>		
(固定負債)	退職給付引当金	職員分	公益目的事業と運営管理業務 に従事する職員の退職給付金として <b>19,626,075</b>		
固定負債合計			<b>19,626,075</b>		
負債合計			<b>51,651,025</b>		
正味財産			<b>462,355,645</b>		

**収支計算書総括表**  
(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

単位:円

科目	一般会計	助成事業 特別会計	国際特別会計	傷害補償制度 特別会計	募金会計	内部取引消去	合計
<b>I 事業活動収支の部</b>							
<b>1. 事業活動収入</b>							
(1)基本財産運用収入	1,126,583	0	0	0	0	0	1,126,583
1.基本財産運用収入	1,126,583						1,126,583
(2)会費収入	296,529,500	0	0	0	0	0	296,529,500
1.支部分担金収入	7,500,000						7,500,000
2.会員登録料収入	254,409,500						254,409,500
3.維持会費収入	34,620,000						34,620,000
(3)事業収入	153,118,697	4,190,000	0	0	0	0	157,308,697
1.大会参加料収入	24,249,500	4,190,000					28,439,500
2.用具検定費収入	29,774,598						29,774,598
3.機関誌関係費収入	9,232,880						9,232,880
4.技術等級認定料収入	5,935,646						5,935,646
5.公認審判収入	64,094,113						64,094,113
6.出版物収入	19,831,960						19,831,960
(4)補助金等収入	0	74,384,360	0	0	0	0	74,384,360
1.補助金収入	0	74,384,360					74,384,360
(5)協賛金寄付金収入	27,400,000	15,900,000	3,000,000	0	0	0	46,300,000
1.協賛金収入	27,250,000	15,900,000	3,000,000				46,150,000
2.寄付金収入	150,000						150,000
(6)雑収入	3,034,911	1,477,461	2,238	0	0	0	4,514,610
1.受取利息収入	97,006	5,911	2,238	0			105,155
2.広告料収入	820,000	1,000,000					1,820,000
3.雑収入	2,117,905	471,550					2,589,455
(7)他会計からの繰入金収入	0	95,206,387	21,000,000	1,984,405	0	△ 118,190,792	0
1.一般会計		95,206,387	21,000,000	1,984,405		△ 118,190,792	0
2.募金会計	0					0	0
(8)国際大会積立金取崩収入	0		0				0
1.国際大会積立金取崩収入			0				0
<b>事業活動収入計</b>	<b>481,209,691</b>	<b>191,158,208</b>	<b>24,002,238</b>	<b>1,984,405</b>	<b>0</b>	<b>△ 118,190,792</b>	<b>580,163,750</b>
<b>2. 事業活動支出</b>							
(1)事業費支出	205,374,971	191,158,208	12,488,097	1,957,000	0	0	410,978,276
1.大会開催地関係費	51,411,020						51,411,020
2.地域大会補助費	4,300,000						4,300,000
3.地域グループ育成費	67,007,100						67,007,100
4.広報活動費	45,182,173						45,182,173
5.表彰費	13,592,876						13,592,876
6.技術等級関係費	1,381,594						1,381,594
7.公認審判関係費	21,070,175						21,070,175
8.用具施設証作成費	1,430,033						1,430,033
9.競技力向上費		159,490,427					159,490,427
10.指導者育成事業費		10,077,953					10,077,953
11.大会開催等関係費		18,262,738					18,262,738
12.日本スポーツマスターズ参加支援費		3,327,090					3,327,090
13.会議費			650,586				650,586
14.視察費			0				0
15.親善大会費			805,565				805,565
16.普及指導費			6,426,877				6,426,877
17.普及指導教材費			408,187				408,187
18.用具費			1,103,721				1,103,721
19.大会振興補助費			0				0
20.活動促進費			566,520				566,520



科目	一般会計	助成事業 特別会計	国際特別会計	傷害補償制度 特別会計	募金会計	内部取引消去	合計
21.国際大会派遣費			2,526,641				2,526,641
22.傷害補償金				1,957,000			1,957,000
23.免税手数料							0
指導要領等作成費	0						0
審判検定会・研修会費	0						0
大会役員関係費	0						0
その他大会関係費	0						0
運営費補助	0						0
(2)管理費支出	106,982,402	0	0	27,405	0	0	107,009,807
1.人件費	33,584,255						33,584,255
2.会議費	13,112,961						13,112,961
3.会員登録関係費	26,064,286						26,064,286
4.IT関係費	15,032,494						15,032,494
5.一般管理費	19,188,406		0	27,405			19,215,811
(3)加盟費支出	1,101,297	0	0	0	0	0	1,101,297
1.加盟費	1,101,297						1,101,297
(4)他会計への繰入金支出	118,190,792	0	0	0	0	△ 118,190,792	0
1.一般会計							0
2.助成事業特別会計	95,206,387					△ 95,206,387	0
3.国際特別会計	21,000,000					△ 21,000,000	0
4.傷害補償制度特別会計	1,984,405					△ 1,984,405	0
5.募金会計							0
(5)国際大会積立金支出	0	0	10,000,000	0	0	0	10,000,000
1.国際大会積立金			10,000,000				10,000,000
<b>事業活動支出計</b>	<b>431,649,462</b>	<b>191,158,208</b>	<b>22,488,097</b>	<b>1,984,405</b>	<b>0</b>	<b>△ 118,190,792</b>	<b>529,089,380</b>
<b>事業活動収支差額</b>	<b>49,560,229</b>	<b>0</b>	<b>1,514,141</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>51,074,370</b>
<b>II 投資活動収支の部</b>							
1.投資活動収入							
(1)職員退職積立金取崩収入	4,959,426	0	0	0	0	△ 4,959,426	0
1.職員退職積立金取崩収入	4,959,426					△ 4,959,426	0
<b>投資活動収入計</b>	<b>4,959,426</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>△ 4,959,426</b>	<b>0</b>
2.投資活動支出							0
(1)職員退職積立金支出	1,500,000	0	0	0	0	△ 1,500,000	0
1.職員退職積立金支出	1,500,000					△ 1,500,000	0
(2)資産取得資金積立金支出	20,000,000	0				△ 20,000,000	0
1.資産取得資金積立金	20,000,000					△ 20,000,000	0
(3)職員退職金支出	4,972,265					0	4,972,265
1.職員退職金支出	4,972,265						4,972,265
<b>投資活動支出計</b>	<b>26,472,265</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>△ 21,500,000</b>	<b>4,972,265</b>
<b>投資活動収支差額</b>	<b>△ 21,512,839</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>16,540,574</b>	<b>△ 4,972,265</b>
<b>III 財務活動収支の部</b>							
1.財務活動収入							
(1)長期借入金収入	0	0	0	0	0	0	0
1.長期借入金収入							0
<b>財務活動収入計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
2.財務活動支出							
(1)長期借入金返済支出	0	0	0	0	0	0	0
1.長期借入金返済支出							0
<b>財務活動支出計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>財務活動収支差額</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>IV 予備費支出</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>当期収支差額</b>	<b>28,047,390</b>	<b>0</b>	<b>1,514,141</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>16,540,574</b>	<b>46,102,105</b>
<b>収支調整額</b>	<b>△ 4,631,722</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>△ 16,540,574</b>	<b>△ 21,172,296</b>
<b>前期繰越収支差額</b>	<b>53,921,697</b>	<b>0</b>	<b>1,018,106</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>54,939,803</b>
<b>次期繰越収支差額</b>	<b>77,337,365</b>	<b>0</b>	<b>2,532,247</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>79,869,612</b>

## 収支計算書に対する注記

### 1. 資金の範囲

現金預金の他に短期金銭債権債務及びこれに準ずるもの  
なお、前期末および当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

### 2. 次期繰越収支差額に含まれる資産および負債の内訳

(単位:円)

科目	前期末残高	当期末残高
現金預金	6,600,816	72,103,902
未収金	52,556,430	38,439,907
合計	59,157,246	110,543,809
未払金	3,915,167	29,594,515
預り金	302,276	269,682
前受金	0	810,000
合計	4,217,443	30,674,197
次期繰越収支差額	54,939,803	79,869,612

## 独立監査人の監査報告書

平成26年5月19日

公益財団法人日本ソフトテニス連盟

会長 表 孟宏 殿

櫻井公認会計士事務所

公認会計士



### <財務諸表監査>

私は、公益財団法人日本ソフトテニス連盟の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの平成25年事業年度の貸借対照表及び損益計算書（公益認定等ガイドラインI-5（1）の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）並びにその附属明細書並びに財務諸表に対する注記について監査し、併せて、正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

### 財務諸表等に対する理事者の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

私の責任は、私が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。

監査の基準は、私に財務諸表等に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表等の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。

監査手続は、私の判断により、不正又は誤謬による財務諸表等の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表等の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表等の表示を検討することが含まれる。

私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、損益（正味財産増減）の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### <財産目録に対する意見>

私は、公益財団法人日本ソフトテニス連盟の平成26年3月31日現在の平成25年事業年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

#### 財産目録に対する理事者の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

#### 監査人の責任

私の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

#### 財産目録に対する監査意見

私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

#### 利害関係

公益財団法人日本ソフトテニス連盟と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。




以 上

平成 26 年 5 月 21 日

## 監 査 報 告 書

公益財団法人 日本ソフトテニス連盟  
会 長 表 孟 宏 殿

公益財団法人 日本ソフトテニス連盟

監事 北村 和久   
監事 阿部 宗一郎   
監事 鈴木 正彦 

私たち監事は、平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日までの事業年度の理事の職務執行を監査いたしました。

その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

### 1. 監査の方法及びその内容

- (1) 各監事は理事及び担当職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会等重要な会議に出席し、理事及び担当職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。
- (2) 当該事業年度に係る会計帳簿及び財務諸表（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

### 2. 監査意見

#### (1) 事業報告書等の監査結果

- ①事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ②理事の職務執行に関しては、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

#### (2) 財務諸表及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

財務諸表及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上